

Hitotsubashi University

**一橋大学国立キャンパス
緑地基本計画レビュー**



**一 橋 大 学
一 橋 植 樹 会**

目次

国立キャンパス緑地基本計画レビュー

－ 第二次緑地基本計画 －

- ・ 学長のことば 国立大学法人 一橋大学長 蓼沼宏一
- ・ 監修のことば 国立大学法人 東京農工大名誉教授 福嶋 司
- ・ 時系列でみたキャンパスの鳥瞰
- ・ 第二次緑地基本計画
 1. 背景と前回からの経緯
 2. 基本管理方針
 3. ゾーニング



4. 第二次緑地管理シート

5. 大径木の分布

6. 新植栽木の分布

7. 記念植樹の分布

・ 編集後記

参考資料

・ これまでの経緯



刊行によせて



『一橋大学国立キャンパス緑地基本計画』は平成16年に刊行されました。このたび、これまでの10年に亘る進捗状況及び成果を検証したレビューが刊行される運びとなりました。基本計画に基づく取組による緑地環境の保全と改善は、多くの関係者の不断の努力の賜物であり、大変感慨深いものがあります。

大学は、言うまでもなく研究と教育の場であり、その中心は学生と教職員の活動です。しかし、そうした研究・教育活動は、実は有形・無形の資産によって支えられていることを忘れてはならないと思います。本学では、まず、重厚で気品のある建物群。中心に広場を置き、兼松講堂、図書館、本館、別館をゆったりと配した構図は絶妙です。

その建物群に、さらに彩を添え、温かさと柔らかみを与えているのが、建物を囲む木々です。私たちは緑のある風景をすっかり見慣れてしまっていますが、もし緑が全くなかったとしたらどれほど殺風景なことでしょう。重厚な建物群と緑が合い高めあって、最高学府にふさわしい思索と創造の空気を醸し出しています。

その美しい緑は、自然に放っておいて保たれるものではありません。常に人の手で整え、新旧の交代も図っていかなければなりません。近年は日本でも里山を保つことの重要性が再認識されるようになりましたが、大学のキャンパスも同様です。国立キャンパスの緑地の管理・保全において一橋植樹会の果たしてきた役割は、まことに多大です。愛校心溢れる本学卒業生が中心となり、教職員や学生も一体となって、学びと研究の場を美しく保つために協働する姿は、一橋大学だからこそ実現できることです。

一橋大学は常に発展を続けています。研究と教育のために、新たな建物が必要となることもあるでしょう。社会科学の世界的研究教育拠点を目指す本学に相応しい、建物群と緑の調和する一層美しいキャンパスの実現のために、このたびまとめられたレビューが有効に活用されることを期待しております。

一橋大学長

蓼 沼 宏 一

監修のことば

国立キャンパスは都会の中に存在する緑の島であり、その中に生活する学生、教職員のみならず、国立市民にとってもかけがえのない緑である。したがって、緑地管理計画はその価値を十分に意識し、50年、100年先を見通したものでなくてはならない。加えて、その管理には継続性が必要で、快適な環境を維持するにそれが担保されなくてはならない。

私は東京農工大学在職中に縁あって、石学長・田崎副学長の依頼を受けて前回の第一次緑地基本計画の立案に携わった。大学の緑の管理の根幹をなす「緑地基本計画」は多くの方々の努力が実を結び平成16年12月に完成し、大学教育研究評議会の承認を経て、名実ともに大学の掲げる「緑地基本計画」となった。10年間にわたり、この緑地基本計画に沿って、母校愛に燃えた多くの参加者によってキャンパスの緑の管理が着実に進められてきたことは素晴らしいと思う。

キャンパスの環境はこの10年間の作業で、初期の想定を超えて、大きな成果を上げることができたと思う。参加者の一人としては、教職員の参加が少ないのが寂しい気もするが、一橋植樹会、教職員、学生の絶え間ない努力と研鑽に深く敬意を表したい。

このキャンパスの緑を通して大学はキャンパス「100年の森」という壮大な構想を持っている。100年の森の計画はかつて、明治神宮の杜を造成するとき議論されたテーマと同じである。しかし、明治神宮の70haに対して、一橋大学の27.8haの空間ははるかに小さい。安定した自然林を造成することを目標にした明治神宮に対して、一橋大学の緑は生活する空間として様々な機能を期待できる森を維持することを目標にしている。この地に大学を移転して以来、営々として実践されてきたキャンパスの森のあり方は「人間と自然の共存」の姿であった。前回の計画でもそれを意識して策定されたものであるが、今後の10年の目標もその延長線上にある。そして、今回の第二次の緑地基本計画は、PDCAサイクルを回し、今後のより具体的な管理について計画したものである。この計画の着実な遂行は、一橋大学の環境、緑に関する意思を内外に示すことであり、同時に、学内の生活環境の向上に大きく貢献することになる。そして、キャンパスの緑の管理に携わった人たちは、いつまでも大学を愛する人々であり続けるであろう。私もこの活動に参加した者の一人として、活動の一層の発展を期待し、微力ながらそのためのお手伝いできればと思っている。

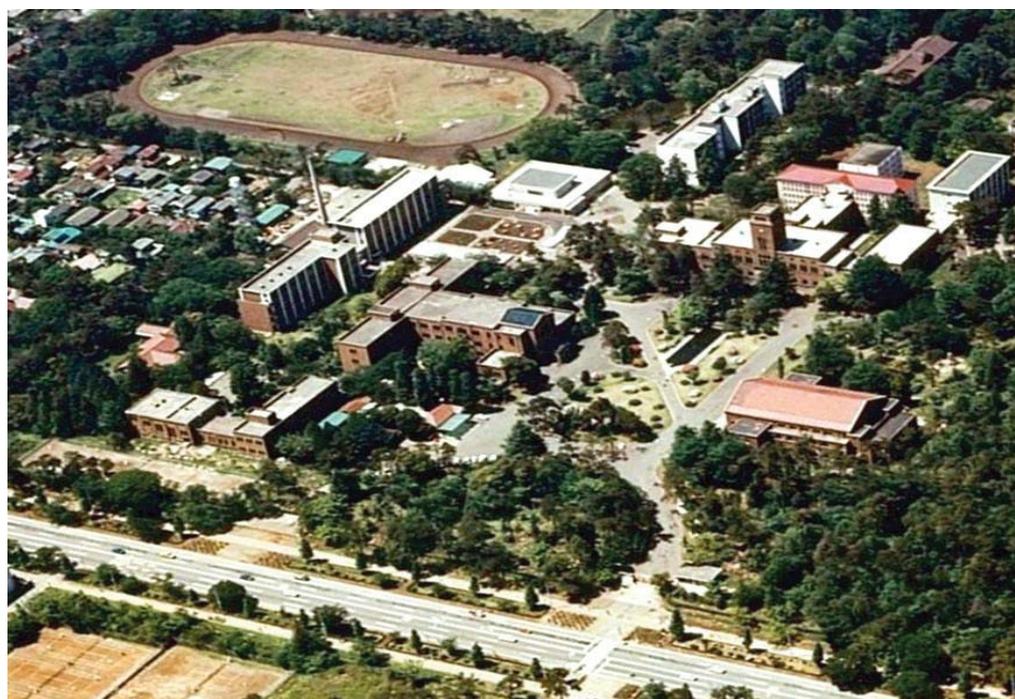
東京農工大学名誉教授 福嶋 司

時系列でみたキャンパスの鳥瞰写真



1932(昭和7)年

原野を切り開き兼松講堂(S2築)、図書館・本館・別館(S5築)が完成した。建物周りの緑地はまだ未整備でキャンパス造りの第一歩である。



1972(昭和47)年

70年安保闘争の影響を受けキャンパスはゴミが散乱して、樹木や草花の手入れもできず荒れ放題のキャンパスを見て、卒業生たちが「あの一橋の森はどこへいったのか」と一橋植樹会が発足した時期である。



1942(昭和17)年

中央庭園や建物周りの樹木も整備され、武蔵野の森の面影を残すキャンパスに生まれ変わった時期である。



2005(平成17)年

「緑地基本計画」が平成16年に完成し、一橋植樹会が緑地の環境整備をボランティアで行う活動に転換した時期である。

第二次緑地基本計画

1. 背景と前回からの経緯

国立キャンパスの緑は都市の中に存在する貴重な「緑の島」であり、その中に生活する学生、教職員のみならず、国立市民にとってもかけがえのない緑である。このような観点から、本学として 100 年先を見通したキャンパスの緑を「期待する目的に合った健全な緑」として保全することを決めた。

平成 15 年 5 月から東京農工大学の福嶋司教授(現 名誉教授)の指導のもと、一橋植樹会のメンバーの協力を得て、現地調査を開始した。以後 6 回の現地調査を経て、キャンパス全体の緑について具体的な整理・検討を行い、それを「一橋大学国立キャンパス緑地管理計画」として結実させた。この成果は平成 16 年 12 月の一橋大学教育研究評議会に提案、そこにおいて大学の緑地管理の基本方針として承認された。

この「緑地管理計画」策定を受けての管理作業は、卒業生が中心になって結成された一橋植樹会が主体となり、これに教職員、学生が加わって、月 1 回のペースで進められてきた。現在、作業への参加者は多い時には 100 名を越すまでになっている。管理開始当初は長い間管理が行われていなかったことを反映して、自然に侵入生育してきた樹木が生育していた。その管理や、枯死木、衰弱木の伐採管理、ヤブ状になった場所の草刈りなどが主な作業であった。また、一方では新たな場所への植樹や多様な環境を形成するために二か所にススキ草原の造成やサクラの植栽等も行った。この 10 年間の多くの参加者による地道な作業の結果、キャンパスの緑は多様性に富むメリハリの効いたものへと確実に変化してきた。

この 10 年間の作業の顕著な成果として次のようなものがある。「矢野二郎先生の銅像周辺の拡充整備」では、初期の計画とは別に植えられたと思われる多くの常緑樹の伐採、ドウダンツツジの移植、歩道の整備、外構の浚渫等を行った結果、見違えるような明るく落ち着いた空間に生まれ変わった。また、「ひょうたん池周辺の整備」では、池を覆っていた樹木の伐採、低木の剪定、ササの手入れ等を行い明るくなった結果、見た目にも落ち着いた明るい空間になり、多くの人が憩う空間になった。そして、冬季にはこの池にカルガモ、マガモなどが 20 羽以上も訪れるまでになった。兼松講堂前の広場はツツジ等の剪定、芝刈りが頻繁にかつ、積極的に進められた結果、「大学の顔」ともいえる、整然とした美しい空間に生まれ変わった。

それは、大学のアイデンティティーを示す貴重な空間になったことを意味している。野球場に沿ったキャンパスの西側部分（通称：岸田ロード）には桜並木が造成され、すでに春には観桜ができるまでに成長している。また、樹木に乏しかった空間には毎年、植樹会や卒業生による記念植樹が行われ、緑の増加が図られてきた。西プラザの東の空間は、大規模な改修の結果が評価され、国土交通省大臣表彰を受けるまでに管理された。

一方、キャンパス内に生育する樹木等はキャンパスの緑の核として重要である。しかしながら、様々な理由により樹木の伐採を行わなければならない事態も生じた。その一つは大木のヒマラヤシーダーの伐採である。この種は乾燥地域であるヒマラヤ北西部からアフガニスタン東部までの野生に生育する樹木で、そこでは優良な建築材として利用されている。日本には明治初期に導入され、その後各地に植えられた。原産地と異なり温暖湿潤なわが国では成長が早く、どこでも短期間の間に大木になっている。しかし、成長がよい分だけ材の弱さが目立ち、各地で雪の影響などで太枝や幹の折れが発生している。キャンパス内でも本部棟西の木の太枝の落下が起こった。また、この種は樹脂分が多いために火に弱く、火災の延焼を招くことも知られている。このため、人通りの多い場所、建物に接して植えられている個体については安全のために伐採を行った。せっかく成長した樹木であることから、伐採したヒマラヤシーダーの切り株はそのまま椅子に、太い幹は半分に裁断してベンチとして生まれ変わり、キャンパスに生活する人々にアメニティ空間を提供している。

この10年の間には予期していなかった事態も発生した。野球場南を中心とする樹林内への突然のランニングロードの建設とそのための樹木伐採がその一つである。これに対して大学からの警告により伐採は中止され、その後の多くの方の努力でランニングロードはコース変更された。伐採された地域も時間の経過とともに植生の復元が徐々に進んできたことから、以前のようにウグイスの声が聞こえる環境は徐々にではあるが戻りつつある。また、東キャンパスでの樹木の強い剪定もあった。その地域は緑地基本計画で望まれる公益的機能の向上、維持が期待された地域である。しかし、それを十分に認識せずに、周辺住民への配慮を優先した結果であるが、基本計画で示された「緩衝機能を持つ樹林帯造成計画」の主旨が生かせなかったことが残念である。また、人災とは言えないが、大学の樹木の代表であるアカマツの「マツ枯れ被害」が発生している。キャンパス内では毎年十本以上の樹齢110年以上のアカマツが枯死し、伐採を余儀なくされている。この被害は有効な対策手段が見いだせないが、今後も枯死木の早期発見と伐採と燻蒸による被害の蔓延

防止対策を進めていかななくてはならない。

基本管理方針の一つとされた「ゼロエミッション」に関しては、先に述べたヒマラヤシーダー幹の椅子への利用、伐採した樹木の太枝はウッドチップにして周辺の歩道に撒かれた。

また、細い枝や葉は隅の一角所に積み上げることで景観へ違和感なく処理できた。しかしながら、ある時、大量に発生したウッドチップがひょうたん池の西、国際交流会館の東に広範に厚く撒かれたため、武蔵野の面影を残すコナラなどの大木を枯死させてしまったという事態も発生した。このことは、その対応に細心の注意を払うことの必要性を喚起した一件である。これらの出来事は、協働してキャンパスの植生管理を進めている大学と植樹会の連携の一層の強化が求められる事実でもあった。

植樹会会員による積極的なボランティア活動は発展し、会員数増加が示すように年を追うごとに管理活動は年を追うごとに盛んになっている。また、キャンパス内では基本計画を基に管理が行われ、生息する動物や植物にとっては格好の生活場所を提供することになっている。ちなみに、キャンパスの周辺を取り巻く森林は多くの鳥類の生息場所になっているし、キャンパス内には武蔵野の雑木林ではもはや見られなくなったキンラン、ギンラン、イチリンソウ、ニリンソウなどが生育を続けている。これらのことは、もう、周辺で見ることのできなくなった古くからの武蔵野の自然を維持し、残しているものとして特筆されてよい。

2. 基本管理方針

「緑地管理計画」はキャンパス全体の緑の調和がとれたものでなくてはならないし、異なる性質を持つ空間では、それぞれに期待する機能が十分に発揮されるものでなくてはならない。また、計画の遂行は長期間が必要である。そのために管理の継続が必要である。また、管理に携わる人が変わっても変わらない管理方針を維持することが必要である。このような観点から、第一次の「緑地基本計画」では以下の基本方針を決めた。

- ①ゾーンごとに緑地の現状及び管理目標等を示した「緑地管理シート」を作成し、緑地管理にあたってはこれに基づき管理に当たる。
- ②「緑地管理シート」は緑地管理におけるゾーンごとの「緑地のカルテ」として取り扱い、中・長期的に一貫性のある無駄のない効率的な管理に努める。
- ③伐採及び除草により生じた樹木等は原則としてゼロエミッション[廃棄物ゼロ]の考え方を導入し、枝葉は現地に残し、幹はできるだけチップにして構内にお

いて自然に返す。

- ④ゾーンごとの緑地管理とは別に、将来に備えた新たな植栽計画を策定し、キャンパスの雰囲気づくりに努める。
- ⑤キャンパスに生息・飛来する野鳥の分布や生育樹木や貴重な植物の分布について調査し、保存及び生態に影響を与えないような緑地管理につとめる。
- ⑥管理には財政的な負担も少なくないことから、教職員、学生及び大学OB等のボランティアによる作業を積極的に行っていく。

この方針は第二次計画においても基本理念として踏襲されている。

3. ゾーニング

第一次の緑地基本計画では、キャンパス内のゾーニングを行い、さらに各ゾーンを地域区分して、それぞれに目標とする群落とそのための具体的な管理方法を示した。

第一次の緑地基本計画では6つのゾーンに区分した。

- I. 開放を前提とした庭園ゾーン (13ゾーン)
- II. 花木を主体にした植栽ゾーン (14ゾーン)
- III. 武蔵野の面影を維持するゾーン (8ゾーン)
- IV. 現状のまま保存するゾーン (13ゾーン)
- V. 新植してバッファーフアー機能を持たせるゾーン (2ゾーン)
- VI. 草地ゾーン (1ゾーン)

このゾーンの内、ゾーンI、IIが最も人の利用する、人間の生活が中心の空間であり、ゾーンIからII、III、IVへ向かうほど昆虫や鳥などの生き物が主体に利用する空間とする考え方である。VとVIは新たに造成する空間である。これがキャンパスの緑地管理のためのゾーニングの基本的コンセプトである。

さらに、各ゾーンはその位置、現状、今後の利用の観点から地域区分を行い51地区に区分し、地区ごとに1枚のカルテを作成した。そのカルテには「現在の緑の特徴と問題点」、「管理目標」、「森林階層の管理方法」の3つが記載されている。さらに、「森林階層の管理方法」では、管理の内容が誰にでもわかるように、階層ごとに管理方法と群落の構造模式図を示した。これらは、時間が経過し、管理する人が変わっても、目標とする植物群落へ向かった管理が容易なことを考えたためである。

以上の考え方を元に、キャンパス全域のゾーンと其中での地区区分を示す図-1の「一橋大学緑地管理基本図」を作成した。

緑地基本計画ゾーニング図

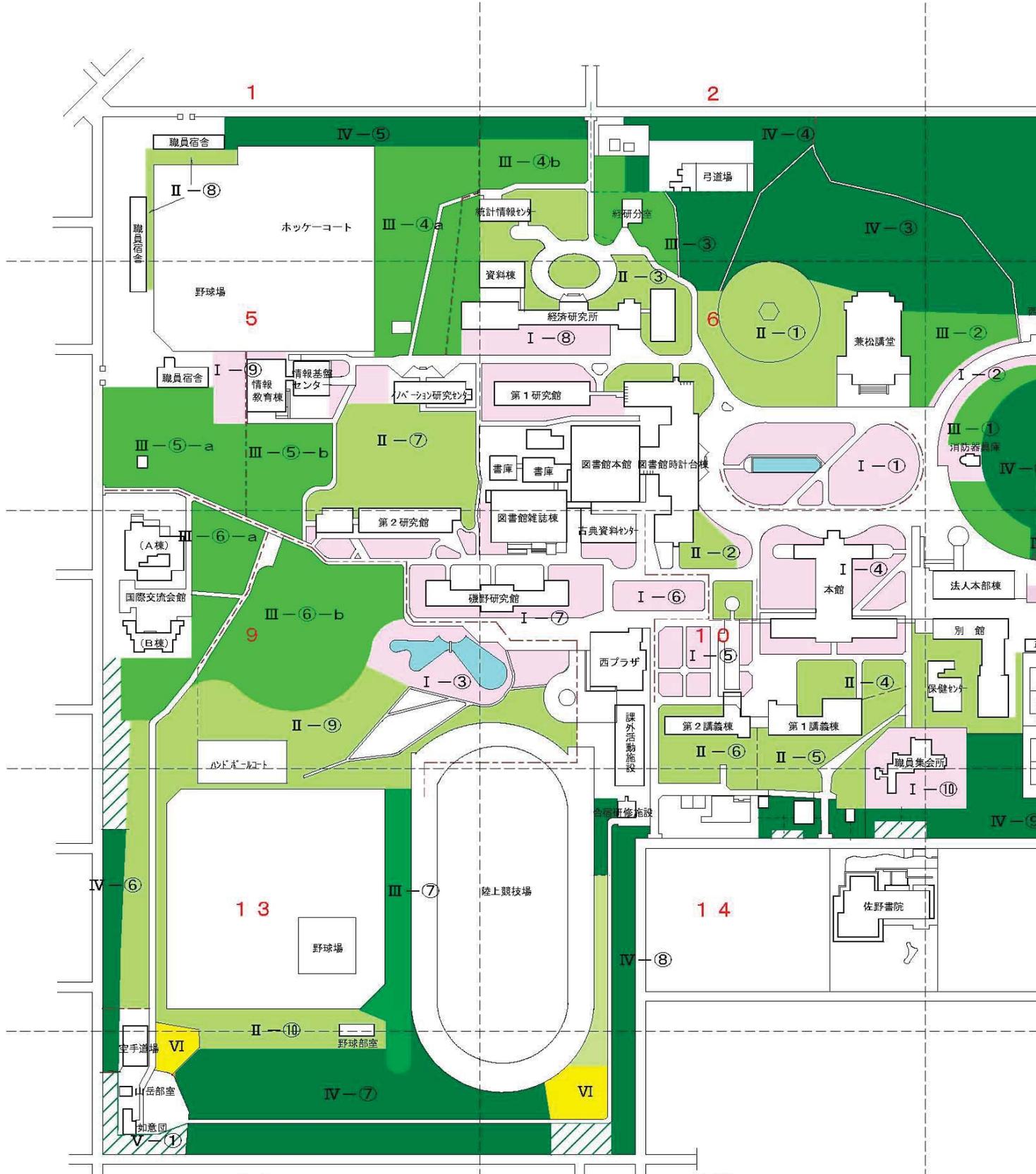
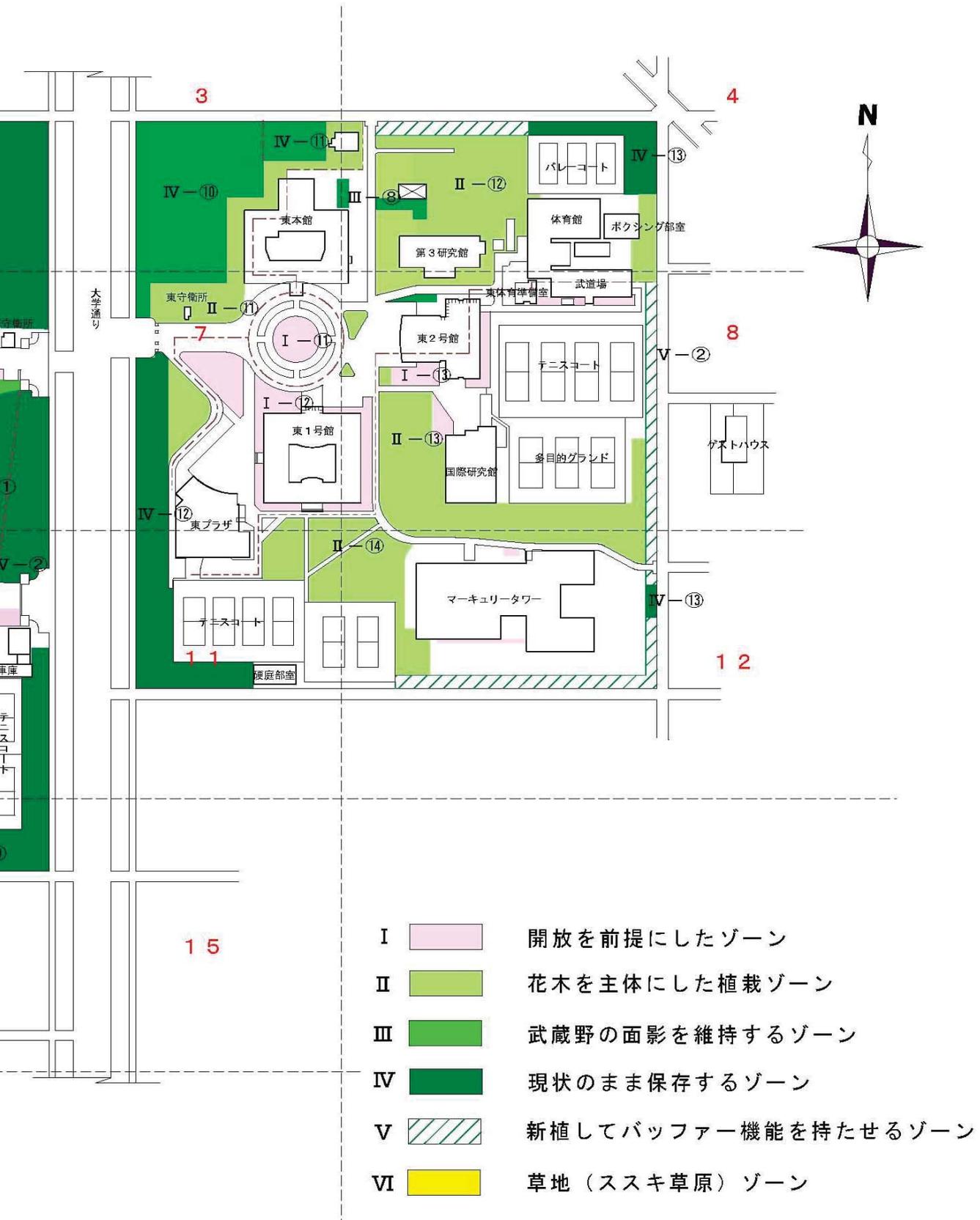


図 - 1



4. 第二次緑地管理計画

第二次緑地基本計画は、これまでの経緯を振り返って進捗状況の検証を行い、その成果を生かし、次の10年に向けた緑地管理計画を策定するものである。当然のことながら、この第二次緑地基本計画でも、51地区で示した管理目標とそれに向けての管理の方針は、基本的には第一次の「緑地基本計画」の考え方を踏襲している。

今回も緑地管理シート（カルテ）を作成し、検討を加えた。

(1) 緑地管理シート

第一次緑地基本計画ではゾーンごと東京農工大学の福嶋司教授(現 名誉教授)の指導により現状の植生を観察して、【植生タイプ模式図】を伴う【目標とする植生】、【特記事項】、【管理目標】及び【管理方法】を記入したカルテである「緑地管理シート」を作成した。今回の検討でも第一次と同様に各地区の緑地管理シート（カルテ）を作成した。

第二次の緑地管理シート

第二次の緑地計画での「緑地管理シート」作成に当たっては、10年を迎えた現段階での進捗状況のチェックを行い、それをもとに次の計画を立案する、いわゆるPDCAサイクルを回すことに努める。

今回のシートの内容構成としては、第一次計画で示した【管理目標】、【計画時の状況】と【第一次管理計画】を示し、次に第一次計画を実践した結果の【管理の進捗状況】とその【進捗度評価】を行った。さらに、今後、当面10年を目標にした【第二次管理計画】と【特記事項】、【目標植生模式図】を追加した。

【管理目標】：将来にわたる各ゾーンの植生管理の在り方を示すもので、第1次の緑地基本計画で定めた目標と同じである。

【計画時の状況】：第一次の計画段階の状況を再録したものであり、管理を始める前の植生の状況を示している。

【第一次管理計画】：第一次管理計画で計画段階の植生の状況から検討した「管理する項目」と「管理方法」をまとめて再録したものである。

【管理の進捗状況】：これは第一次管理計画で植生管理を計画した項目ごとに、その実施状況の検証と、計画項目以外に実施した項目と内容について示している。検証では、特に顕著な成果、あるいは新たに追加した内容で特徴的な成果については黒丸(●)、計画どおりに実施できた項目については丸(○)、実行できなかった項

目についてはバツ（×）としてそれらを項目の前に表示した。

【進捗度評価】：管理の進捗状況を受けて、対象としたゾーンでの総合的な進捗度を、4段階のS（計画以上：緑色）、A（計画通り：黄緑色）、B（やや不十分：ピンク色）、C（不十分：赤色）として評価した。この中でA（計画通り）とB（やや不十分）の判定には、微妙なところがあるが各項目の重要性を吟味して判断した。A（計画通り）は一部未達成の内容は残るが、基本的な部分が計画通り進捗しているもの、B（やや不十分）は基本的な部分が未達成であるものとして判定した。

【第二次管理計画】：【管理の進捗状況】とその【進捗度評価】の結果を受けて、実施できなかった項目を含めた次期の管理計画を示した。これがこれからの緑地管理計画の具体的な作業内容になる。

【特記事項】：第一次緑地計画で示された各ゾーンの特徴に加えて、その後に生じた項目について掲載した。

【目標植生模式図】：第一次計画の緑地基本計画では構内の緑を群落の階層構造から高木層（10m 以上）、亜高木層（4–8m）、低木層（0.5–3m）、草本層（0.5m 以下）に区分し、それらの層を構成する優占種の生活形によって、植生タイプ1～15に区分した。そして、【植生タイプ模式図】を作成した。これは、各ゾーンの現状および目標とする植生タイプを示すことにより、植物に精通していなくても管理方針を具体的に認識できることを期待したものである。今回は、さらに群落の特徴をよりビジュアルにイメージし、認識しやすいように前回のものを改良し、樹形模式を新たな【目標植生模式図】として再構成した。新たな模式図では深緑をヒノキ、サワラなどの常緑針葉樹、緑色をスダジイ、シラカシなどの常緑広葉樹、黄緑色をコナラ、クヌギなどの落葉広葉樹、ピンク色をソメイヨシノ、ヤマザクラなどのサクラ類、その他の樹種は、常緑性のササや低木については樹冠を緑、落葉性のものは樹冠を黄緑、花木についてはオレンジなど必要に応じて着色してある。

さらに、第一次の模式図と第二次の模式図の関係がわかるように、図を比較できるようにした。

2) 管理進捗状況の判断

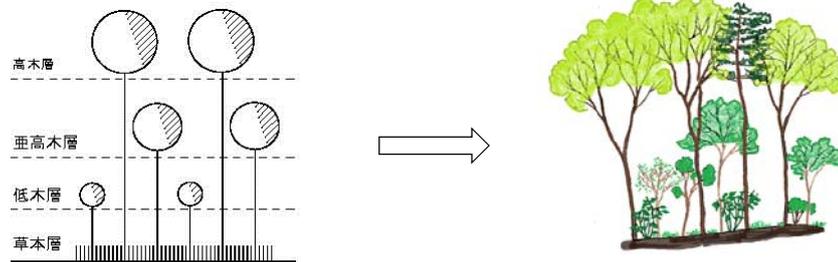
今回作成した緑地管理シート（カルテ）によれば、その中で第一次の計画が予定通りに実施されたかどうかについて判定している。判定結果では、「計画以上」、「計画通り」を合わせると全体の54ヶ所のうち43ヶ所、80%の達成率であり、全体的には成果が表れている。区分された地域ごとの判定結果を全域で見ると、S（計画以上）は6ヶ所、A（計画通り）は37ヶ所、B（やや不十分）は7ヶ所、

C（不十分）は4ヶ所であった。一方、これからの積極的な管理が必要である「不十分」と「やや不十分」を合わせた11ヶ所は、全体の20%あまりである。この20%を少しでも低くするための努力が必要である。

植生タイプ模式図

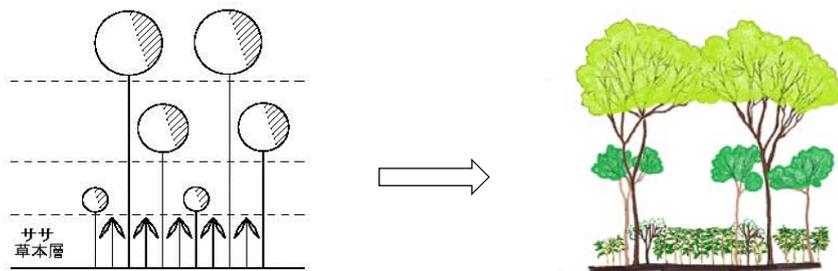
タイプ1

高木層にアカマツ、コナラが生育、亜高木層、低木層、草本層には常緑の種が多いタイプ



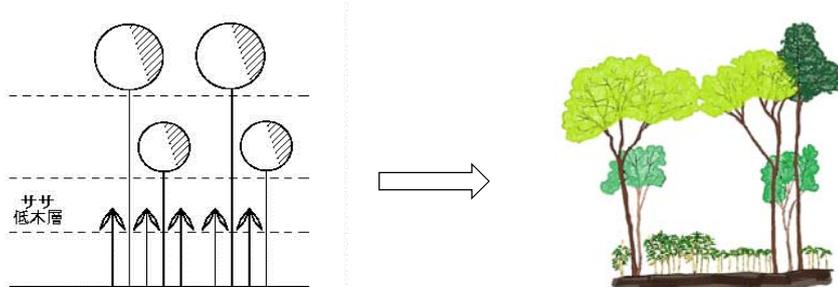
タイプ2

高木層は落葉樹が優占し、亜高木層・低木層は常緑、草本層はササ類が優占するタイプ



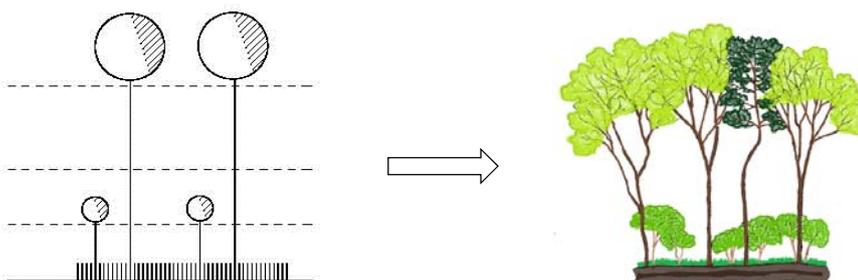
タイプ3

高木層にアカマツ、コナラが生育、亜高木層は常緑の種、ササ類の低木層を持つタイプ



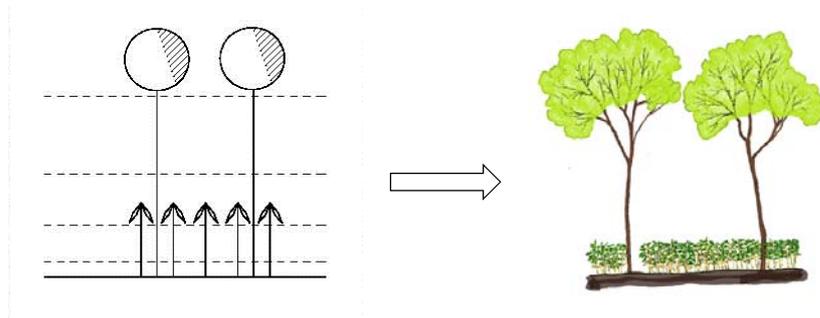
タイプ4

高木層にアカマツ、コナラが生育、亜高木層は常緑の種、落葉樹の低木層を持つタイプ



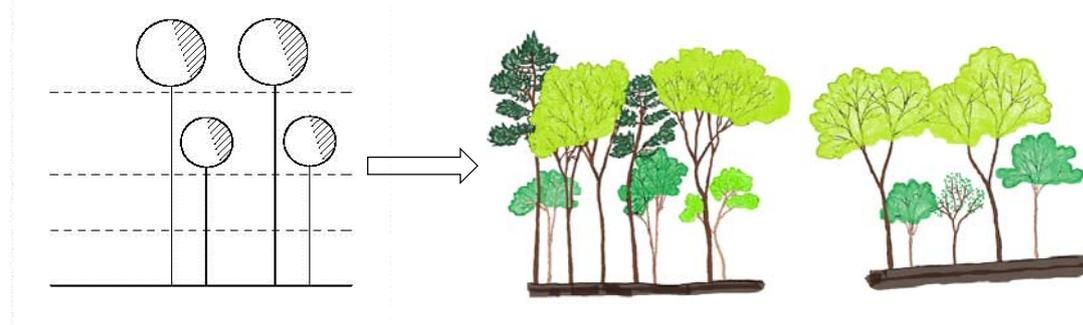
タイプ5

落葉樹の高木層とササ類の低木層の二層からなるタイプ



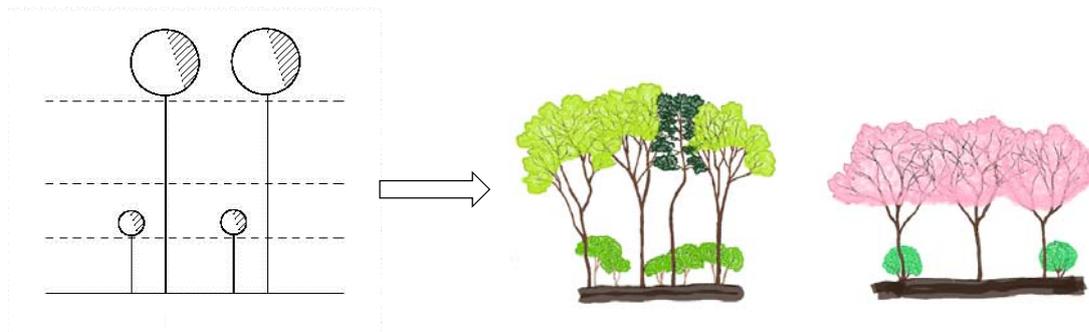
タイプ6

高木層と亜高木層は落葉樹、針葉樹または落葉樹が優占、下層の低木層、草本層を欠くタイプ



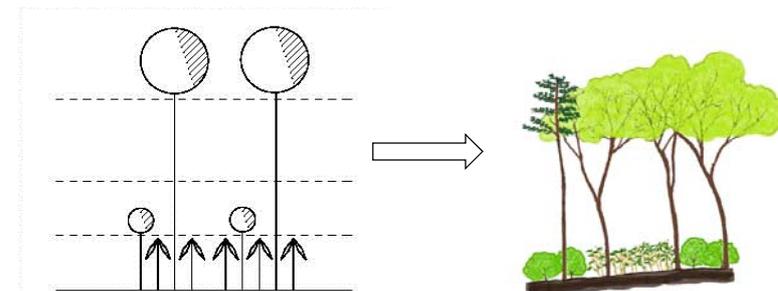
タイプ7

高木層と低木層のみで、亜高木層を欠くタイプ。低木層は常緑または落葉樹が優占



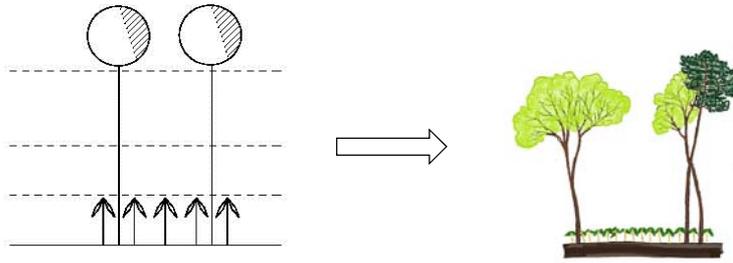
タイプ8

高木層と低木層のみで、亜高木層を欠くタイプ。低木層はササ類が優占



タイプ9

高木層と草本層のみのタイプで、草本層に背の低いササ類が優占



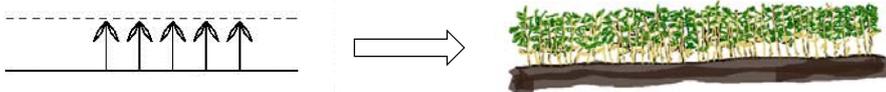
タイプ10

高木層だけのタイプ



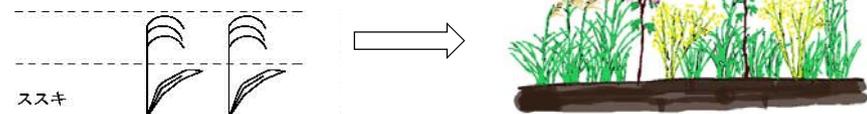
タイプ11

ササ類だけのタイプ



タイプ12

ススキ、ハギ類の草原タイプ



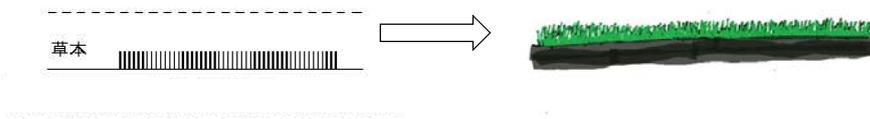
タイプ13

建物の外周に植栽された花木低木タイプ



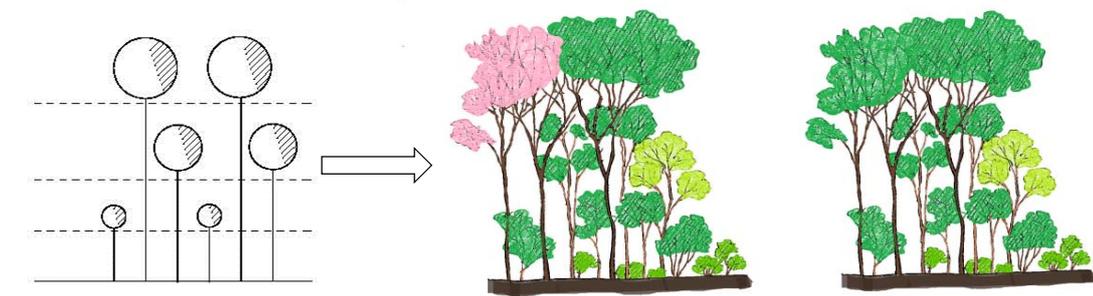
タイプ14

定期的な刈り取りで維持する草本群落タイプ



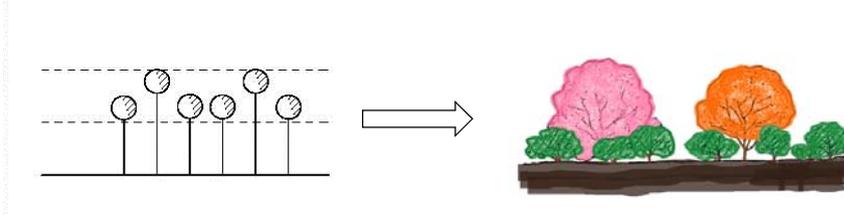
タイプ15

常緑樹が優占する高木層、亜高木層、低木層をもつ林が、草本層を欠くタイプ



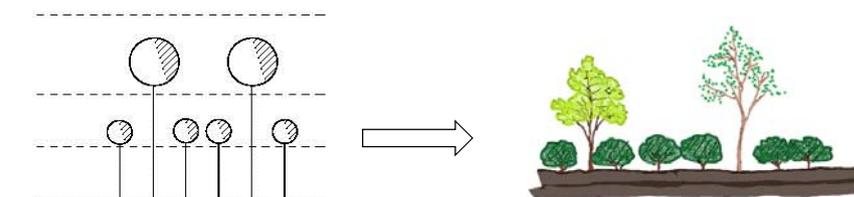
タイプ16

低木の花木を中心に植栽されたタイプ



タイプ17

庭園などの亜高木や低木からなるタイプ



緑地管理シート

(資料 1)

- I  ……開放を前提とした庭園ゾーン
- II  ……花木を主体とした植栽ゾーン
- III  ……武蔵野の面影を維持するゾーン
- IV  ……現状のまま保存するゾーン
- V  ……新植してバッファー機能を持たせるゾーン
- VI  ……草原(ススキ草原)ゾーン

【管理目標】

構内で最も人々が利用し、目立つ空間であるので、今後も現状のタイプを維持し、修景効果を高める。

【計画時の状況】

構内で最も目立つ空間であるが、近年本格的には植生管理が行われて来なかったため、ツツジ類へのツル植物の被覆が多く、樹形が変形している。

【第一次管理計画】

- ・鉢物に枯死と変形が見られる。→植え直し補植する。
- ・芝生の裸地部分を補植する。
- ・低木類の剪定管理を行う。
- ・ツツジを覆うツル植物を除去する。
- ・池南側のハナミズキは他のゾーン(I-⑥)へ移植する。

【管理の進捗状況】

- 低木類の剪定管理を実施した。
- ツツジを覆っていたツル植物を定期的に除去した。
- × ハナミズキの移植は未実施。
- × 芝生の裸地部分を補植は未実施。

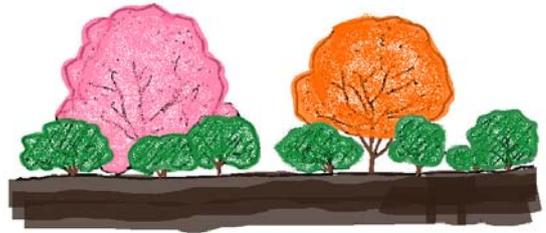
【進捗度評価】

S(計画以上) **A(計画通り)** B(やや不十分) C(不十分)

【第二次管理計画】

- ・モッコク、モミジ類の成長に対しては、適宜、整枝の上、樹形を整える。
- ・ツツジ類などが大型化しているが、今後も剪定とツル植物の除去に努める。
- ・芝生の裸地部分を補植する。
- ・鉢物に枯死と変形が見られるので補植する。
- ・池南側のハナミズキは他のゾーン(I-⑥)へ移植する。
- ・池南側の衰弱したハナミズキを除去し他に移植する。
- ・可能な限り、芝生の刈りこみを行い、侵入する植物の除去に努める。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

学内へのエントランス部分であり、整然とした樹木配置と広い空間を確保する。

【計画時の状況】

イチヨウの成長で兼松講堂や図書館の遠望を阻害している。
 高木・・・イチヨウ 15m
 低木・・・ドウダンツツジ 1.5m

【第一次管理計画】

- ・偏形木、枯損木、不要木など特定木の選択的除去する。
- ・ドウダンツツジの枯死し、欠落した部分を補植する。
- ・年2回6月と9月に全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 枝の剪定を実施した。
- × 偏形木、枯損木、不要木など特定木の選択的除去は未実施。
- × ドウダンツツジの補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上) A (計画通り) **B (やや不十分)** C (不十分)

【第二次管理計画】

- ・伐採を決定した樹木の早期伐採を行う。
- ・ドウダンツツジ補植を実施する。
- ・ヒマラヤシーダー11本、アカマツ1本、サワラ1本、枯損木1本の計14本を除去する。(伐採予定樹木の幹にテープを巻いた)

階層ごとの管理

- ・高木層は変形樹など特定木の選択的除去を行う。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は6月と9月の年2回の全面刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

正門から入って学内を眺めむ構内のエントランス部分でありショウウインドウ的な地域。広い空間を確保するため若干の樹木の伐採と低木の補植を行う。

【備考】

【管理目標】

高木層と低木層の整理、草本層の定期的な刈取り管理を行い明るい庭園として維持する。

【計画時の状況】

ミズキの繁茂、低木の管理不足で雑然とした荒れた地域になっている。

【第一次管理計画】

- ・偏形樹など特定木の選択的除去を行う。
- ・池を覆うミズキ3本を除去する。
- ・シュロと被圧木の除去を行う。
- ・ツツジ類の上を覆うツル植物を除去する。
- ・オオムラサキ、ドウダンツツジの補植を行う。

【管理の進捗状況】

- 扁形樹の除去を実施した。
- ミズキ3本を除去した。
- シュロや被圧木を除去した。
- ツツジ類を覆うツル植物を除去した。
- 年1回6月から7月にかけて、草本類の全面的刈取りを行った。
- 春植物のカタクリの植栽を行った。
- × オオムラサキ、ドウダンツツジの補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・今後も亜高木と低木の適宜整理を実施し、明るい環境を維持する。
そのためにサザンカ、ドウダンツツジの剪定を行い、ツル植物を除去する。
- ・衰弱、変形している上田像南側のエノキとコナラを除去する。
- ・樹木を欠く空間にコナラを数本補植する。
- ・カタクリの維持増殖を図る。

【目標植生模式図】



【特記事項】

構内で唯一の池であり、冬季にはカモ類が飛来する空間になっている。

【備考】

【管理目標】

本館の周囲の樹木の枝切りと低木、草本の管理を行い、明るい空間を維持する。

【計画時の状況】

本館の南と西側は亜高木が密植しすぎているため、暗い空間になっている。

【第一次管理計画】

- ・扁形樹などの選択的除去を行う。
- ・サルスベリの剪定を行う。
- ・枯れたタマイブキを補植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は変形樹など特定木の選択的除去。
- ・低木層は現状を維持。

【管理の進捗状況】

- 倒木の危険性のある本館東側のヒマラヤシイダを伐採した。
- 第一講義棟の北側の枯損木の伐採とクスノキの枝打ちを行った。
- ツル植物の除去を実施した。
- × タマイブキの植え替えは未実施。
- × サルスベリの剪定は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・サルスベリの剪定を行う。
- ・ツル植物の定期的除去を実施する。
- ・低木層と草本層は現状の姿を維持するが、定期的な剪定と刈取りを実施する。
- ・裸地部分に芝生を貼り、景観の改善に努める。
- ・枯死した部分のイヌツゲの補植を行う。
- ・タマイブキの植え替えを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

東側のヒマラヤスギ8本を2013年2月に伐採除去。これにより東側は明るい空間が開けた。

【備考】

【管理目標】

積極的に植生管理を実施して現状タイプを維持し、修景効果を高める。

【計画時の状況】

- ・学生の多く集う空間であるが、最近植生管理が行われていない。
- ・シバが枯れ、裸地化しているところがある。
- ・タマイブキがツル植物によって覆われている。

【第一次管理計画】

- ・タマイブキの傷んでいるので補植する。
- ・シバ地で裸地になっているところにシバを補植する。
- ・ツツジ類を覆うツル植物を除去する。
- ・サツキ、オオムラサキなどの剪定を行う。

【管理の進捗状況】

- 学生が多く集う空間であることから、大幅な改修を行った。
- 新たな樹木の補植、ツツジ類の剪定、シバの張替えを実施した。
- 定期的なツル植物の除去を実施した。

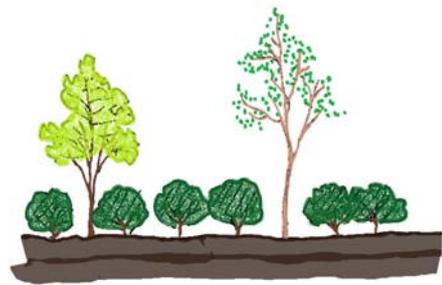
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・低木類の剪定を行う。
- ・定期的にツル植物の除去を行う。
- ・芝生の刈りこみと、侵入した草本類の除去を行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

改修を行った西プラザ前の庭園は、国土交通省大臣表彰を受けた。

【備考】

【管理目標】

学生が多く集まる場所であるので、明るい空間として現状を維持する。

【計画時の状況】

・ハナミズキ・ウメを主体とした明るい空間である。
高木・・・ハナミズキ, ウメ 5～10m

【第一次管理計画】

- ・カンツバキの補植を行う。
- ・芝生の張り替えを実施し、年1回の全面刈取りをする。
- ・草本類は6月と9月に年2回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 北側庭園の東端に学生有志に花畑が作られた。
- 北側庭園の枯れたハナミズキの場所に、町田山荘の記念としてアメリカハナミズキが植栽された。
- 年1回の全面刈取りを実施した。
- × カンツバキの補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・現状を維持し、低木の剪定、芝の年1回の刈取りを継続する。
- ・花壇の活用を継続する。
- ・I-①ゾーンからハナミズキを移植する。
- ・草本は6月と9月の年2回の全面刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

ハナミズキ・ウメ・ゴヨウマツを主体とした明るい空間である。

【備考】

【管理目標】

現状タイプを維持し、修景効果を上げるために積極的に植生管理を行う。

【計画時の状況】

- ・建物の周囲の修景効果を期待して造成された空間であるが管理されていない。
- ・ツル植物によって覆われているツツジ類が多い。

【第一次管理計画】

- ・ドウダンツツジ、オオムラサキなどの剪定を行う。
- ・ツル植物の除去を行う。
- ・低木内に侵入している植物を除去する。

階層ごとの管理

- ・低木層は現状を維持。
- ・草本層は年2回の刈り取り…6月と9月に2回の全面刈り取りを行う。

【管理の進捗状況】

- ツル植物の除去を行った。
- 低木内に侵入している植物を除去した。
- 年1回、草本の刈り取りを行った。
- ドウダンツツジ、オオムラサキなどの剪定を行った。

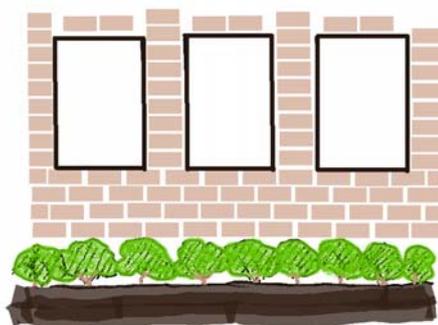
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・定期的な草本類の刈り取りを実施する。
- ・枯れているイヌツゲを除去し、新植する。
- ・ドウダンツツジ、オオムラサキの剪定を行う。
- ・低木内に侵入している植物を除去する。
- ・草本は6月と9月の年2回の全面刈り取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

基本的には現状タイプを維持し、草本を刈取り明るい空間にするが、イノベーションセンター西側はタイプ13に誘導する。

【計画時の状況】

雑木林の面影を残す空間であるが、追加植栽されたものも多く雑然としている。

【第一次管理計画】

- ・イノベーションセンターの西側のセアカシアを伐採する。
- ・ツル植物を除去する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持…枯死木は残し、危険木の除去を行う。
- ・低木層は現状を維持。
- ・草本層は年2回の刈取り…6月と9月に2回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- ニセアカシアの伐採を行った。
- ツル植物の除去を行った。
- アメリカハナミズキの枯損木を伐採した。
- 年2回の草本類の刈取りを実施した。

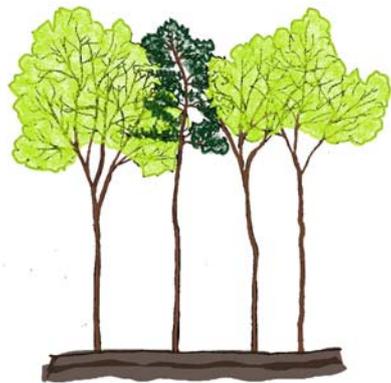
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・植栽木が多いので衰弱木の樹勢を見ながら伐採を含めた管理を行う。
- ・ツル植物の定期的除去を行う。
- ・草本類の刈取りを年2回6月と9月に実施する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

植栽木が多い空間である。

【備考】

【管理目標】

人が多く利用する空間なので、落葉樹中心の修景効果の高い空間を造成し維持する。

【計画時の状況】

情報教育棟が建てられた時に植栽された空間であるが、ムクノキ、エノキ、ヌルデが侵入している。

【第一次管理計画】

- ・シュロ、被圧木、植栽木など選択的に除去する。
- ・年1回の草本類の全面刈取りを実施する。
- ・ムクノキ、エノキ、ヌルデなどを除去する。
- ・イロハモミジ、サクラ類を植栽する。

階層ごとの管理

- ・高木層は樹種変更のために特定個体を選択的に除去する。
- ・必要な樹種を植栽する。
- ・草本層は年1回の刈り取り…6月から7月に1回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- ムクノキ、エノキ、ヌルデの除去を行った。
- シュロ、被圧木、植栽木など除去を行った。
- 年1回の草本類の全面刈取りを行った。
- × イロハモミジ、サクラ類の植栽は未実施。

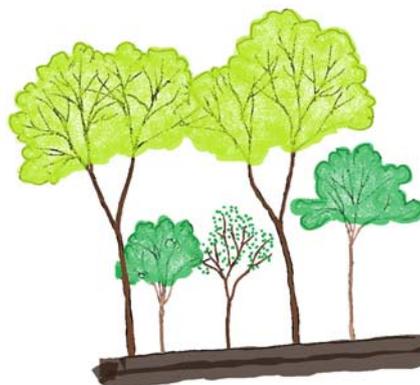
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・情報教育センター西側でアカマツ以外の衰弱した樹木を伐採し、その跡にコナラ、クヌギを中心とした落葉樹を植えて武蔵野の雑木林の復活を図る。
- ・ホッケー場の南側フェンス沿いの樹木を除去する。
- ・シュロや低木類の生育をコントロールする。
- ・年1回の草本類の全面刈取りを実施する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

キャンパス内での雑木林復元の対象地域である。

【備考】

【管理目標】

職員集会所の庭園部分であり、ツツジ類の植栽地域である。現状タイプを維持し、刈り込みなどを行うことで修景効果を高める。

【計画時の状況】

多くの低木が植栽されているが、その多くをツル植物が被覆している。

【第一次管理計画】

- ・衰弱したイロハモミジとシュロを除去する。
- ・ツル植物に被圧されたツツジ類を除去し、新植する。
- ・ツル植物を除去する。
- ・イロハモミジの植栽を行う。

階層ごとの管理計画

- ・低木層は現状を維持。
- ・草本層は年1回の刈り取り…6月～7月に1回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 周辺のシュロ全て除去した。
- ツル植物を定期的に除去した。
- 年1回の草本類の全面刈取りを実施した。
- × イロハモミジの植栽は未実施。

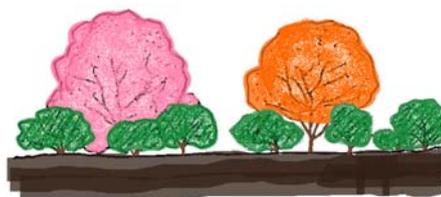
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・定期的に植栽木の管理、低木の剪定を行う。
- ・イロハモミジの補植を行う。
- ・集会所南側の高木の陰にあるドウダンツツジ2本を別の場所に移植する。
- ・年1回6～7月に草本類の全面刈取りを実施する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

東校舎の最も目立つ空間であり、現状タイプを維持し、積極的に修景効果を高める。

【計画時の状況】

十分な植生管理が行われていない。
 ・ドウダンツツジ列植地であるが、被圧による枯死で欠けている場所が多い。

【第一次管理計画】

- ・衰弱した危険木を除去する。
- ・上層木の日陰によって枯死したドウダンツツジのあった場所にドウダンツツジを補植する。
- ・サルスベリとウメの剪定を実施する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持・・・枯死木は残し、危険木の除去のみを行う。
- ・亜高木層は現状を維持。
- ・低木層は現状を維持。
- ・草本層は手を加えず現状を維持。

【管理の進捗状況】

- サルスベリとウメの剪定を実施した。
- 衰弱した危険木を除去した。
- × ドウダンツツジの補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・周囲を取り巻き植栽されていたタギョウショウの補植検討する。
- ・ドウダンツツジの補植を行う。
- ・年1回の全面草刈りを実施する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

ウメの強剪定で樹形が乱れた。樹形が崩れたウメに関しては、今後、注意深く剪定し、樹形の修復を図る。

【備考】

【管理目標】

東キャンパスの最も目立つ空間で、高木層にアカマツ、コナラなど雑木林の面影をのこしている地域である。今後も現状を維持して明るい空間にする。

【計画時の状況】

高木に雑木林の名残を残している。

【第一次管理計画】

・正門東側の地域でサツキが欠けているところにサツキを補植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持・・・枯死木は残し、危険木の除去を行う。
- ・低木層は現状を維持。
- ・草本層は年2回の刈り取り・・・6月と9月に2回の全面刈取り。

【管理の進捗状況】

- 卒業記念植樹を行った。
- アカマツ、イチヨウの枝を整理した。入り口の雰囲気は明るくなった。
- 年1回全面刈取りを実施した。
- × 正門東側のサツキの補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・年に2回6月と9月に全面刈取りを行う。
- ・正門東側のサツキ欠落部分にサツキを補植する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

有備館、国際研究館も含むエリアである。現状のタイプを維持する管理を実施する。

【計画時の状況】

有備館南と西にモモの木がある。

【第一次管理計画】

- ・国際交流館北西部のサツキの剪定を行う。
- ・サツキを覆っているヘデラを除去する。

階層ごとの管理

- ・低木層は現状を維持。
- ・草本層は手を加えず現状を維持。

【管理の進捗状況】

- サツキ剪定を実施した。
- サツキを覆っていたヘデラを除去した。
- トイレ北西、テニスコート北側、有備館南のトウネズミモチを伐採除去した。
- 有備館の玄関脇のエノキを除去した。
- 有備館東側茂っていた低木をすべて除去した。

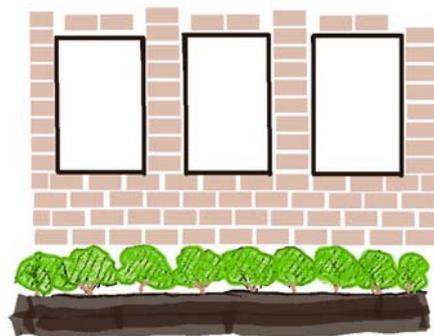
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・まだ残っている有備館玄関脇のトウネズミモチを除去する。
- ・有備館東南角の株立ち状のマテバシイは、幹と枝を整理しコンパクトにする。
- ・東2号館入り口北側のツツジは、日照が無いため外の場所に移植する。
- ・2号館裏で歯抜け状態になっているベニカナメを補植する。
- ・2号館のシュロ、ヤマグワを除去する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

本来の庭園風空間へ回復させる。そのために常緑樹を減らし落葉樹を中心とした明るい空間にする。今後もできる限り当初の設計意図に近づける。

【計画時の状況】

矢野二郎先生の銅像を中心にする空間。サクラ類を中心に修景効果の高い空間として造成されたものであるが、その後多くの樹種の補植で主張のない林になっている。

【第一次管理計画】

- ・弱ったサクラ類を除去し、フゲンゾウ、ウコン、ヤマザクラを植栽する。
- ・亜高木と低木のタイサンボク、スダジイ、シュロ、アオキを除去する。
- ・低木を覆っているツル植物を除去する。

階層ごとの管理

- ・高木層は変形樹など特定木の選択的除去を行う。
- ・亜高木層はシュロ、被圧木などの選択的除去。
- ・低木層は、現状維持し、一部補植する。
- ・草本層は年2回刈り取り…6月と9月の年に2回の全面刈取り。

【管理の進捗状況】

- 矢野先生銅像までの道を修復整理した。
- 周囲の土砂を浚渫した。
- 高木と亜高木では、常緑樹、偏形樹など特定木の除去を行った。
- 草本層は、6月と9月の年に2回の刈取りを行った。
- × 低木層のドウダンツツジの補植は未実施。
- × 弱ったサクラ類は除去したが、サクラ類の植栽は未実施。

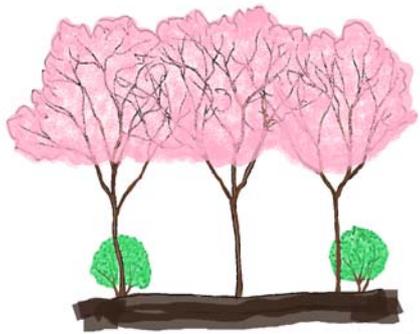
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・アカマツは残し、衰弱しているコナラを伐採する。
- ・ドウダンツツジの補植を行う。
- ・背後のヒマラヤシーダーとヒノキの枝打ち実施する。
- ・年2回の草本類の刈取りと、落ち葉の清掃を行う。
- ・ヤマザクラ2本を補植する。
- ・外構の土砂を浚渫する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

大学移転80周年事業の一環として、高木の伐採、枝打ちなどの植生管理、銅像台座基礎補修、外周排水溝掘り起こし、通路の玉砂利などの管理を行い、かつてのようにサクラ類の落葉樹が優占する明るい空間となった植生管理の最大の成果である。

【備考】

【管理目標】

現状のタイプを維持しながら、積極的に修景効果を高めて明るい空間へと誘導する。

【計画時の状況】

小さな空間であるが雑木林の中に銅像を配置した記念の空間である。低木をツル植物が覆い、クマザサの中に多くの低木が生育している。

【第一次管理計画】

- ・樹木は現状維持するが、枯死木は残り危険木の除去を行う。
- ・イイギリ、エノキ、ヒマラヤシーダーを除去する。
- ・イイギリ、エノキ、ヒマラヤシーダー伐採跡にイロハモミジを植える。
- ・丸便横は高木だけのタイプとするために、低木を刈り取る。
- ・道路側で欠けているタマイブキを補植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持・・・枯死木は残り、危険木の除去のみを行う。
- ・低木層の除去・・・除去後は2年から3年に1回の刈り取り。
- ・草本層は年2回の刈り取り・・・6月と9月に2回の全面刈取り。

【管理の進捗状況】

- 低木は除去し、2～3年に一回の刈取りを行った。
- 6月と9月の年2回、草本類の刈取りを行った。
- 丸便横の低木を刈り、高木だけとした。
- × 道路側で欠けているタマイブキの補植は未実施。
- × イイギリ、エノキ、ヒマラヤシーダーの伐採は未実施。
- × イロハモミジの新植は未実施。

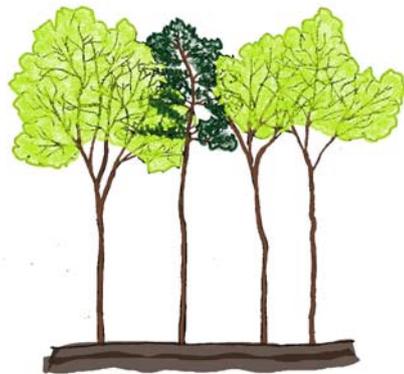
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・イイギリ、エノキ、ヒマラヤシーダーを除去し、伐採跡にイロハモミジを植える。
- ・スタジイ植栽列のうち、アカマツと競合する1本を除去し、他の個体の枝を落とす。
- ・丸便横は高木だけのタイプとするために定期的に低木を刈る。
- ・道路側で欠けているタマイブキを補植する。
- ・ツル植物の除去を行う。
- ・6月と9月の年2回、草本類の刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

基本的には現状の姿を維持し、積極的に林床管理を行う。

【計画時の状況】

明るい空間であるが林床管理が行われていない。

【第一次管理計画】

- ・現状樹木構成を維持し、危険木除去を行う。
- ・統計情報処理センター南側は低木類を除去してタイプ10へ誘導する。
- ・統計情報処理センター東側は年1回の草本類の刈り取りを続け、将来はススキ草原へ移行する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持し、枯死木は残し、危険木の除去の実を行う。
- ・低木は除去し、除去後は2～3年に1回の刈り取りを行う。
- ・草本層は年2回の刈り取り、6月9月の年2回の全面刈り取り。

【管理の進捗状況】

- 枯死木のエゴノキを除去し、シュロを除去した。
- 低木を除去し、その後は2～3年に1回の刈り取りを行った。
- 年1回、草本類の刈り取りを行った。
- 経済研究所入り口手前のゴヨウマツの整枝手入れを行った。
- × ススキ草原化は未実施。

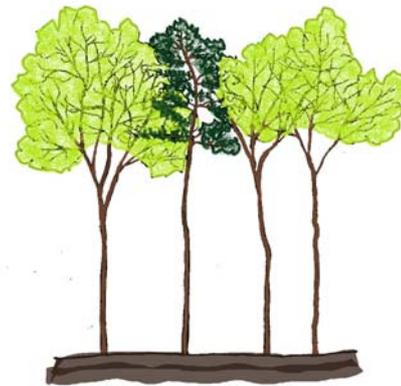
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・現状樹木構成を維持し、危険木除去を行う。
- ・統計情報処理センター北側のムクノキとカキノキを除去する。
- ・統計情報処理センター南側のイヌザクラ、サワラ、ムクノキを伐採除去する。
- ・衰弱しているオオシマザクラを伐採し、ヤマザクラを2本捕植する。
- ・低木の管理のため、2～3年に1回の割合で低木の刈り取りを行う。
- ・6月9月の年2回、草本類の刈り取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

この地域は雑木林の雰囲気を残しているが、生育している樹木が老齢であることから、近い将来、同じ樹種の新植により次世代の姿へ移行する必要がある。構内では数少ないキンラン、ササバギンランの生育地である。

【備考】

【管理目標】

自然に侵入生育した亜高木層の樹林を除去して明るい空間とする。

【計画時の状況】

樹木植栽によって造成された空間である。管理不足によって多くの樹木が侵入生育している。

【第一次管理計画】

- ・自然に侵入したシュロ、ムクノキ、トウネズミモチを除去する。
- ・別館東のイチヨウの選定を行う。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持。枯死木と危険木を除去する。
- ・亜高木を除去し、5～10年に一度のチェックと除去を実施する。
- ・低木を除去し、除去後は2～3年に一回の刈取りを行う。
- ・草本層は6～7月に一回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 別館東のイチヨウの剪定を行い、テニスコート側の侵入木を除去した。
- 亜高木のイイギリ・ヤマグワ・ムクノキ等の除去を実施した。
- ムクノキ、トウネズミモチ等の除去を実施した。
- 上層木に日陰にされていたイヌツゲの鉢物を移植した。
- 草本類の年1回の刈取りを実施した。

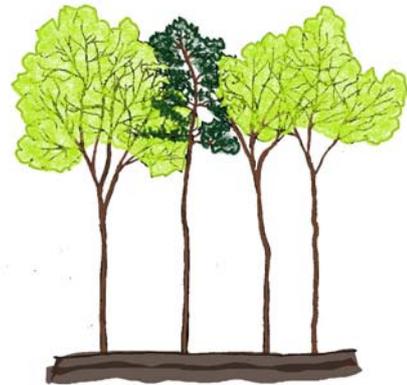
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・基本的には現状を維持する。
- ・侵入・生育するムクノキ、トウネズミモチ等は適宜除去を行う
- ・シダレザクラが極度に弱っているので世代交代を行う。
- ・定期的イチヨウの剪定を行う。
- ・低木を除去し、除去後は2～3年に一回の刈取りを行う。
- ・草本層は6～7月に一回の全面刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

管理不足で多くの樹種が侵入繁茂していた。
保健センター付近は、秋はイチヨウ、イロハモミジ、ドウダンツツジなどの紅葉がきれいな空間になっている。

【備考】

【管理目標】

高木層に生育する樹木を残すが、亜高木層と低木層に侵入した種を除去し、明るい空間とする。

【計画時の状況】

雑木林の面影を残している場所であるが、多くの樹種を植栽したため暗い空間になっている。
さまざまな樹種が混在して雑然とした空間になっている。

【第一次管理計画】

・ツツジ類が上層のスダジイによって被圧されているので、スダジイの枝おろしを行う。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状維持し、危険木の除去を行う。
- ・亜高木層は、シュロ、被圧木、植栽木などの選択的除去を行う。
- ・低木層は除去し、隔年一回の刈取りを行う。
- ・草本層は、6～7月に年一回刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 高木と亜高木の危険木、衰弱木の整理を行った。
- シュロ、ハチク、被圧木の選択的伐採を行った。
- 低木層の樹木は除去し、隔年一回の刈取りを行った。
- 草本層は、6～7月に年一回刈取りを行った。
- スダジイの枝おろしを行った。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・現状を維持する。
- ・イヌツゲやツツジ類が上層の樹木に被圧されているので移植を考える。
- ・イロハモミジの補植を行う。
- ・低木は除去し、隔年一回の刈取りを行う。
- ・草本は、6～7月に年一回刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

学内で1本だけしかないツガの高木が生育している。
構内に2か所しかないキンラン、ササバギンランの生育地である。

【備考】

【管理目標】

現状のタイプを維持するが、衰弱しているサクラを世代交代させる。

【計画時の状況】

サトザクラの並木であるが生育不良の樹木が多い。

【第一次管理計画】

・衰弱したサクラの植え替えを行う。

階層ごとの管理

- ・高木層は、危険木と枯死木の除去を行うが現状維持
- ・草本層は6月と9月の2回全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 侵入生育していた低木類を除去した。
- 草本層の全面刈取りを実施した。
- 一部、記念植樹としてサクラの植え替えを実施した。

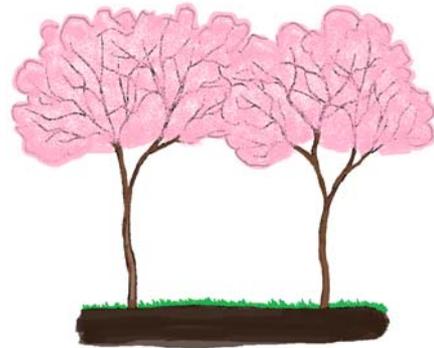
【進捗度評価】

S (計画以上) A (計画通り) B (やや不十分) C (不十分)

【第二次管理計画】

- ・基本的には現状を維持する。
- ・衰弱したサクラを除去し、新に補植をする(記念植樹も含む)。
- ・コブシは残すが、カキノキは伐採する。
- ・草本は6月と9月の2回全面刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

自転車やゴミ投棄に対する管理が必要である。
サクラの並木のうち、生育不良の個体が多い。

【備考】

【管理目標】

落葉樹を主体に、高木と低木からなる明るい空間として維持する。

【計画時の状況】

管理が不十分なためにムクノキ、イイギリなどが侵入生育し高木層にまで達している。

【第一次管理計画】

- ・自然に侵入してきたイイギリ、ニセアカシアなどを伐採し、除去する。
- ・植栽されている低木類の剪定を行う。
- ・低木を覆うツル植物を除去する。

階層ごとの管理

- ・高木層は、偏形樹など特定木の選択的除去を行う。
- ・亜高木層は、シュロ・被圧木・植栽木などの選択的除去を行う。
- ・低木層は植栽を除き除去する。年1回の除去を行う。
- ・草本層は6～7月に年1回の刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- イイギリ、ニセアカシアなどの伐採を実施した。
- 亜高木層のシュロ・被圧木・植栽木などの選択的除去を行った。
- 植栽低木の剪定と侵入低木の伐採を行った。
- 低木を覆うツル植物を除去した。
- 草本層は6～7月に年1回の刈取りを行った。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・密生しているサザンカ、キンモクセイを整理し、明るい空間として維持する。
- ・サワラ、イヌザクラ、エゴノキは衰弱木、被圧木になっているので除去する。
- ・空いている空間にオオシマザクラ、ヤマザクラを植栽する。
- ・低木層は植栽を除き除去する。年1回の除去を行う。
- ・日当たりが悪い場所であることからツツジ類は別の場所に移植する。
- ・低木を覆うツル植物を除去する。
- ・草本は6～7月に年1回の刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

ホツケー場からの音や塵を防ぐために常緑樹主体の樹林帯を維持する。

【計画時の状況】

キャンパス緑地内でも特に幅の狭い緑地帯であり、多様な樹種により構成されている。

【第一次管理計画】

・宿舎にかかっている樹木の枝を行う。

階層ごとの管理

- ・高木層は、現状維持。危険木の除去を行う。
- ・亜高木層は侵入した樹木を除去しながら現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は6～7月に年1回刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 要注意外来生物に指定されているトウネズミモチの植栽列を平成13年3月にすべて伐採除去した。
- × 草本層は6～7月に年1回刈取りは未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・衰弱が進んでいるサクラ類を除去する。それ以外の高木は現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本は6～7月に年1回刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

サクラを主体とした明るいゾーンとして維持する。

【計画時の状況】

サクラの植栽地である。一部に雑木林の要素が残るが、侵入した樹木が多い。

【第一次管理計画】

- ・サクラを主体とした明るいゾーンとするために、侵入、生育した亜高木と低木を除去する。
- ・シュロ、アズマネザサを除去し、ヤブミョウガを保護する。
- ・ツツジの剪定をおこなう。
- ・ツル植物の除去を行う。

階層ごとの管理

高木層は現状を維持し、危険木を除去する。
 亜高木層はシュロ、被圧木、植栽木などの選択的除去。
 低木層を除去し、その後2年から3年に1回の刈り取り。
 草本層は2年に1回の刈り取り。

【管理の進捗状況】

- ひょうたん池の南にコナラ、クヌギの記念植樹を平成20年に行った。
- ひょうたん池の南にOBによるカタクリの寄付植栽を平成20年に行った。
- 亜高木層と低木層に侵入、生育した樹木の除去を行った。
- アズマネザサの刈取りを実施し、ヤブミョウガの保護を続けた。
- ツル植物の除去を行った。
- 草本層は2年に1回の刈取りを行った。

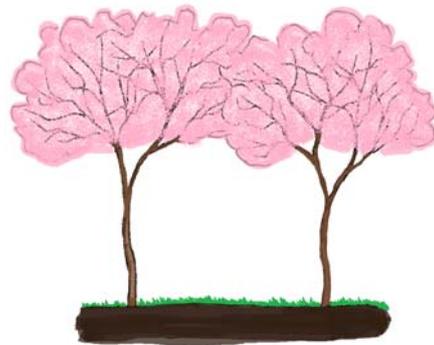
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・亜高木層以下の侵入木を除去しながら現状維持する。
- ・多くの低木が伐採されたハンドボール場北側に低木を育てる。
- ・ハンドボール場の東の衰弱したハナミズキ9本をすべて除去する。
- ・ヤマザクラ2本をハンドボール場の東に植える。
- ・生協広場と陸上競技場の境界部分の整備を行う。
 (プラタナスとサクラの間にイヌツゲの低木造成など)
- ・ストックヤード側に目隠しの木を植える
- ・オオムラサキの剪定を行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

サクラの植栽地であるが一部に雑木林の要素が残る。侵入した落葉樹が多い。ハンドボール場周辺部分で広範囲で低木の無断伐採があった。低層の復元が必要である。

【備考】

【管理目標】

サクラを主体とする明るい林に誘導する。

【計画時の状況】

積極的にサクラが植えられた空間であるが、全く手入れされず放置されている。

【第一次管理計画】

- ・衰弱したヤマザクラを除去する。
- ・アズマネザサの背丈を揃え、明るい林へと誘導する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状維持し、危険木の除去を行う。
- ・亜高木層は、危険木と枯死木の除去を行うが現状を保つ。
- ・低木層は武蔵野の雑木林を構成する低木種を残し、他を除去する。
- ・草本層は2年1回の刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 野球場の西側(岸田ロード)にフゲンゾウの桜並木を造成した。
- 山岳部部室横にギョイコウの記念植樹を平成21年に行った。
- 衰弱したヤマザクラを除去した。
- 亜高木層は、危険木の除去を行った。
- 草本層は2年1回の刈取りはグラウンド側のみ行った。
- × アズマネザサの草丈揃え等は未実施。

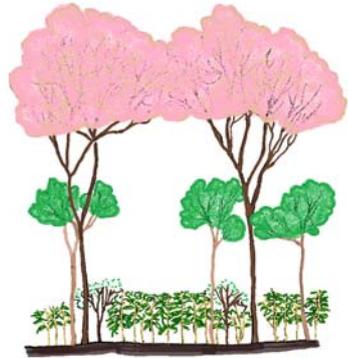
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・高木層は現状維持し、危険木の除去を行う。
- ・亜高木層は、危険木と枯死木の除去を行うが現状を保つ。
- ・アズマネザサの背丈を揃える。
- ・低木層は武蔵野の雑木林を構成する低木種を残し、他を除去する。
- ・草本層は2年1回の刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

現状タイプの明るい空間として維持する。

【計画時の状況】

列植されたイチヨウと昔からのアカマツが残された空間。

【第一次管理計画】

- ・まばらに生えている侵入した低木を除去する。
- ・低木を覆っているツル植物を除去する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持し、危険木の除去を行う。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は除去する。除去後は2～3年に1回の刈取りを行う。
- ・草本層は6月と9月の年2回刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 高木層は危険木の除去を行った。
- まばらに生えていた侵入した低木を除去した。
- 低木を覆っていたツル植物を除去した。
- 草本層の刈取りは年1回実施。
- × 低木層の除去後の刈取りは未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・東本館に接する位置に生育するヤマグワ、トウネズミモチを伐採する。
- ・東本館の北側の道路に面する地域に遮蔽のためクロガネモチを列植する。
- ・守衛所から東本館入口間の空間の修景を検討の必要がある。
- ・堀光亀像周辺にイヌツゲ、ドウダンツツジの補植・追加植栽を行う。
- ・トウネズミモチをはじめとする侵入木の除去を継続する。
- ・イヌツゲを磯野研究館前から移植する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

列植されたイチヨウと昔からのアカマツが残された空間である。
 列植されたイヌツゲの枯損がみられる。
 建物沿いは歩きやすいように整備されている。
 ところどころに看板などの粗大ごみがみられる。

【備考】

【管理目標】

現状を維持し、明るい空間とする。

【計画時の状況】

アカマツを残しながらイチヨウ、サワラ類を植栽した空間。

【第一次管理計画】

- ・枯れた樹木を除去する。
- ・ヌルデを除去する。
- ・セイタカアワダチソウを除去する。
- ・ごみを撤去する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持し、危険木の除去を行う。
- ・亜高木層は現状維持する。
- ・草本層は6月と9月の年2回、前面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 第三研究館と空手道場の間に自然に侵入したトウネズミモチ、ヤマグワ、ムクノキなどを除去した。
- 体育館玄関前のトウネズミモチを伐採、マテバシイの枝を剪定した。
- 腐朽している樹木植栽時の支持棒、杭を撤去した。
- × 第一次基本計画ではボクシング部室横の樹林帯は外部との緩衝地帯として位置づけされていたが、強剪定してしまった。

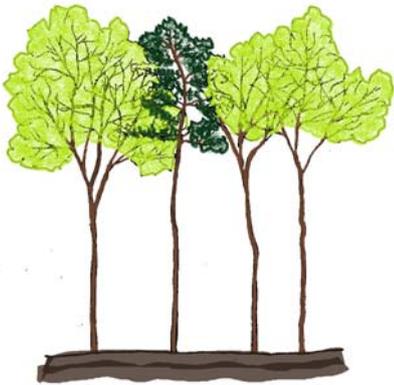
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・高木層は緩衝効果を高めるために、強剪定された樹木にかんしてはその育成を図る。
- ・強剪定された樹木のうち、外来種のトウネズミモチはすべて伐採し、代わりになる樹種での樹林化を図る。
- ・草本層は6月と9月の年2回、前面刈取りを行う。
- ・衰弱したクスギの管理方法を検討する。
- ・ツバキの剪定を実施する。
- ・トウネズミモチ、ムクノキなどの侵入生育木を除去する。
- ・全体にサツキの剪定を実施するが、東2号館の北側(新建物の南)のサツキは日照条件が悪いので東側に移植する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

基本計画では、ボクシング部室横の防林帯は緩衝地帯として配置付けされており、強剪定はそれをまったく無視した対応である。

【備考】

【管理目標】

高木のコナラ、サクラ類を主体とする明るい空間として維持する。

【計画時の状況】

樹木が散在する明るい空間になっている。

【第一次管理計画】

- ・周囲の生け垣のカナメモチを剪定する。
- ・テニスコートの北側にカナメモチを補植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状維持するが、危険木の除去を行う。
- ・草本層は6月と9月の年2回全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 草本類の刈取りを実施。
- × カナメモチの補植と剪定は未実施。

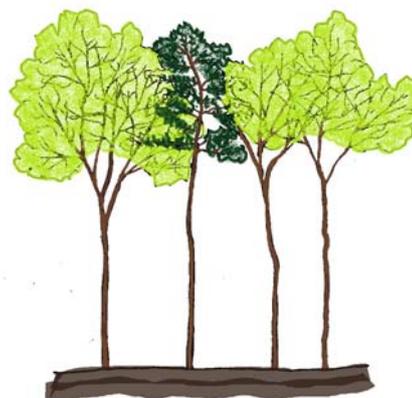
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・高木については、基本的に現状を維持するが、建物に接するコナラを伐採する。
- ・テニスコート側のカナメモチの剪定を行う。
- ・草本類に関しては年1回全面刈取り実施する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

サクラを主体とした明るい林として維持する。

【計画時の状況】

サクラを主とした植栽地である。

【第一次管理計画】

- 若いサクラへ世代交代する必要がある。
- ・カイヅカイブキを除去する。
- ・テニスコートの北側にカナメモチを補植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状維持し、危険木の除去を行う。
- ・亜高木層は除去する。その後は5年に1回のチェックと除去を行う。
- ・草本層は手を加えずに現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- サワラの除去は一部を除き完了。
- カイヅカイブキを除去した。
- テニスコートの北側のカナメモチを剪定管理した。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・サクラの生育している空間では、一部サクラが衰弱しているので若いサクラへ世代交代させる。樹種はオオシマザクラ。
- ・引き続き残るサワラを伐採する。
- ・テニスコート北側のサワラ、シュロも伐採して明るくする。
- ・テニスコートとマーキュリータワー間のスタジイやヤマグワは除去、枝の剪定を行う。
- ・テニスコートの北側にカナメモチを補植する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

無秩序な自動車の駐車が見られる。駐車場と植栽地の区分が必要。

【備考】

【管理目標】

現状を維持するがアカマツを被圧している樹木の枝を落としアカマツを積極的に保護する。

【計画時の状況】

雑木林の中に多くの樹木を植栽した林である。
林内は暗く林床の発達が悪い。

【第一次管理計画】

- ・アカマツを被圧しているクスノキの枝落しを行う。
- ・ヤマザクラが被圧され衰弱しているのでヤマザクラを植え替える。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持し、枯死木は残し、危険木の除去のみを行う。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- クスノキとスダジイの枝落としを実施した。
- × サクラの植え替えは未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上) A (計画通り) B (やや不十分) C (不十分)

【第二次管理計画】

- ・基本的には現状を維持するが、アカマツへの被圧木の枝を落とす。
- ・多くの樹木に対して被圧原因になっているヒマラヤシーダーは状況を確認し、適宜伐採する。
- ・サクラとイロハモミジの補植を行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

雑木林の中に多くの樹木を植栽した林であるが、ヒマラヤシーダーの成長で陽が入らず雑然としている。

【備考】

【管理目標】

アカマツを保護し、明るい雑木林のタイプに誘導する。

【計画時の状況】

昔の武蔵野の雑木林の姿が残っている場所であるが、ヒマラヤシダーの成長で森内は暗く、雑然としている。

【第一次管理計画】

- ・コナラの立ち枯れ木を除去する。
- ・シュロを伐採する。
- ・ヤマザクラを2本新植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は危険木と枯死木の除去を行うが、全体の現状を維持する。
- ・亜高木層はシュロ、被圧木、植栽木などの選択的除去を行う。
- ・草本層は6月～7月に年1回の全面刈り取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 兼松講堂付近のヒマラヤシダー大木の伐採により、明るい空間となった。
- 伐採跡に八重桜を2本新植した。
- コナラの立ち枯れ木を除去した。
- シュロを伐採した。
- 6月～7月に年1回の草本層の全面刈り取りを行った。

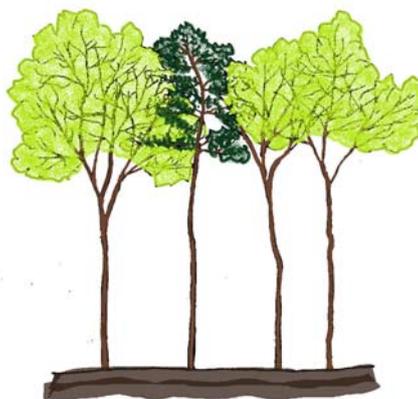
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・今後とも現状を維持する。
- ・アカマツを被圧している樹木、ヒマラヤシダーを中心に11本を伐採する。
- ・枯れている樹木、枯れはじめているアカマツを伐採する。
- ・IV-③から伸びているイヌザクラの枝をおとし、サクラの樹勢を回復させる。
- ・草本層は6月～7月に年1回の全面刈り取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

雑木林の姿を残しているが樹木が成長しすぎている。当面は現状を維持するが、将来的には若い個体への植え替えを行う。

【計画時の状況】

武蔵野の雑木林の面影を残す地域で、最近まで林床の管理が行われていた空間である。

【第一次管理計画】

・現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- 危険木の伐採を行った。
- 低木層を除去し、定期的に刈取りを行った。
- 草本層は年1回の全面的刈取りを行った。

【進捗度評価】

S (計画以上) A (計画通り) B (やや不十分) C (不十分)

【第二次管理計画】

- ・日当たりの良い場所に次世代のためにコナラ、クスギを捕植する。
- ・外部から侵入し、成長したイイギリを除去する。
- ・高木層は現状を維持し、危険木のみ除去する。
- ・低木層を除去し、その後は2年から3年に1回の刈取りを行う。
- ・草本層は6～7月に年1回の全面的刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

このエリアをIII-④-aとIII-④-bに二分して異なる管理を行う。
 III-④-a地域はアカマツを除く老齢木を伐採し、新植して若い武蔵野の雑木林を造成する。
 III-④-bの地域は現在のサクラを中心とした林を維持するが、サクラの若木の新植も行う。

【計画時の状況】

雑木林の樹種が多く生育するが、亜高木に成長の悪いモウソウチクが繁茂しているために、雑然とした林になっている。

【第一次管理計画】

- ・モウソウチクを集中的に管理する。
- ・衰弱しているヤマザクラ、エゴノキを除去し、跡にヤマザクラを新植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持し、枯死木を残し、危険木の除去のみを行う。
 (中央・南側)被圧木、植栽木などの選択的除去(南側)
- ・亜高木層は、危険木と枯死木の除去を行うが現状を保存(中央)
- ・低木層の除去し、その後は2年から3年に1回の刈取りを行う。
- ・草本層は2年に1回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 藪になっていたモウソウチク林は伐採により北側境界付近まで後退した。
- 高木と亜高木では危険木と枯死木の除去を行い、シュロ、被圧木植栽木などの選択的除去を行った。
- 低木層はアズマネザサの刈取りと低木の除去を実施し、その後は2年に1回刈取りを行った。その結果、アズマネザサの高さが迎えられ、低木も目立たなくなった。
- × ヤマザクラとエゴノキの伐採は行ったが、ヤマザクラの新植は未実施。

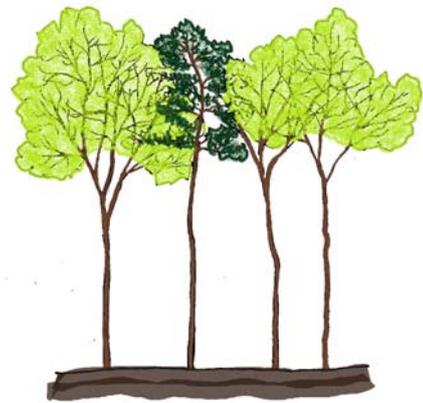
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・III-④-aではアカマツ以外の樹木を診断の上、伐採してコナラ、クスギを新植して武蔵野の雑木林を維持する。
- ・低木層に生育した樹木を除去し、その後は2年から3年に1回の刈取りを行う。
- ・草本層は2年に1回の全面刈取りを行う。
- ・III-④-bではサクラの健康度診断を行い、衰弱した個体を除去してヤマザクラを新植する。
- ・草本層は1年に1回の全面刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

このエリアをIII-⑤-aとIII-⑤-bに二分し、異なる管理を行う。
 III-⑤-a地域はアカマツを除く老齢木を伐採し、新植して若い武蔵野の雑木林を造成する。
 III-⑤-bの地域は雑木林の性質を保つが、低木も含む姿として管理し、現状のタイプを維持する。

【計画時の状況】

雑木林の姿を残す林であるがさまざまな種が侵入した姿になっている。

【第一次管理計画】

- ・第2研究館西側のイチヨウがサクラを被圧しているのでイチヨウを他の場所に移植する。
- ・第2研究館のサツキの剪定を行う。

階層ごとの管理

- ・高木・亜高木・低木は、現状を維持し、危険木のみ除去する。
- ・草本層は、中央部：手を加えず現状を維持する。
- ・ツル植物が覆っている場所が多いので除去する。
- ・周辺部は6月から7月に、年1回全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 危険木の除去を実施した。
- 第2研究館のサツキの選定を行った。
- 建物周囲のツル植物は定期的に除去した。
- 6月～7月に1回、建物周辺部の草本類の全面刈取りを行った。
- × イチヨウの移植は未実施。

【進捗度評価】

III-⑤-a	S(計画以上)	A(計画通り)	B(やや不十分)	C(不十分)
III-⑤-b	S(計画以上)	A(計画通り)	B(やや不十分)	C(不十分)

【第二次管理計画】

- ・エリアを2分して管理する。
- ・職員宿舎南側のIII-⑤-aはアカマツを残し、衰弱木、枯死木、低木を伐採、整理しコナラ、クヌギ等を補植して雑木林としての更新を図る。
- ・情報教育棟のIII-⑤-bの地域は南側は現状維持する。
- ・6月～7月に1回、建物周辺部の草本類の全面刈取りを行う。
- ・計算センターの周りにサクラ(陽光、オカメザクラ)を新植する。

【目標植生模式図】



III-⑤-a

III-⑤-b

【特記事項】

【備考】

【管理目標】

このエリアをIII-⑥-aとIII-⑥-bに二分し、異なる管理を行う。
 III-⑥-a地域はアカマツを除く老齢木を伐採し、新植して若い武蔵野の雑木林を造成する。
 III-⑥-bの地域は雑木林の性質を保つが、低木も含む姿として管理し、現状のタイプを維持する。

【計画時の状況】

雑木林の姿をした林であるが、長期間管理を行わなかったために雑木林の中に多くの樹種が侵入した林になっている。

【第一次管理計画】

- ・雑木林として維持するために高木と亜高木を生かす。
- ・第2研南側は亜高木を選択的に除去、国際交流会館は低木を除去し、草本を刈り取る。
- ・ひょうたん池西側は手を加えずに現状を維持する。
- ・国際交流会館の東側はヒマラヤシーダーとイイギリを除去する。
- ・国際交流会館の東側はハギ、ススキを活かすために低木を刈る。
- ・第2研究館南側のシュロを刈り取る。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状維持・・・枯死木は残し、危険木のみ除去する。
- ・シュロ、被圧木、植栽木など選択的撤去をおこなう。
- ・第2研究館南側の草本層は年1回6～7月に刈取りを行う。

【第二次管理計画】

- ・エリアを2分して管理する。
- ・国際交流会館東側のIII-⑥-aはアカマツを残し、衰弱木、枯死木を整理しコナラ、クスギ等を補植して雑木林としての更新を図る。
- ・6月～7月に1回草本類の全面刈取りを行う。
- ・ひょうたん池の西側のIII-⑥-bの地域は現状維持するが、中央の歩道の在り方、伐採木の管理方法を含めて再検討する。
- ・III-⑥-bのハンドボールコート側の地域は現状維持するが、伐採されたアオキの再生を図る。

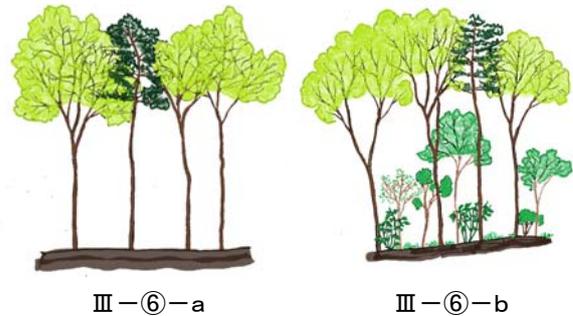
【管理の進捗状況】

- 国際交流会館の東側はヒマラヤシーダーとイイギリを除去した。
- 国際交流会館の東側は低木を刈り、その作業を継続した。
- 第2研究館南側は亜高木の樹木、シュロを刈り取った。

【進捗度評価】

III-⑥-a	S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
III-⑥-b	S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)

【目標植生模式図】



【特記事項】

ひょうたん池西側は手を加えずに現状を維持する計画であった。しかし、計画を無視して伐採した木材の撤去、低木の伐採など大幅に手が加えられた。
 当初の計画の遂行には、再度の低木植栽を含めてかなりの時間が必要である。
 III-⑥-aにある古い焼却炉を撤去する。
 III-⑥-b地区は今後も伐採した樹木や枝葉の収容場所として活用する。

【備考】

【管理目標】

かつての管理された雑木林の姿とするために枯死木、衰弱木を除去し、林床の管理を行う。

【計画時の状況】

アカマツを主体とする雑木林の中にサクラ類を植えた姿になった樹林帯である。

【第一次管理計画】

- ・陸上競技場南西側のイロハモミジを除去し、ヤマザクラを新植する。
- ・テングス病にかかっているサクラが多いのでこれを管理し、一部伐採し、新植する。
- ・カジイチゴの低木を除去し、跡にサクラを新植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は、危険木と枯死木の除去を行うが、現状を維持する。
- ・亜高木層はシュロ、被圧木、植栽木などの選択的除去を行う。
- ・低木層を除去する。除去後は2年から3年に1回の刈り取りを行う。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- マツノザイセンチュウによるアカマツ枯死が発生したのでそれを伐採した。
- テングス病にかかっているサクラが多かったため患部の枝を除去した。
- × 陸上競技場南西側のイロハモミジの除去とヤマザクラの新植は未実施。
- × カジイチゴの低木を除去したが、跡へのサクラ新植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・高木層は危険木と枯死木の除去を行いながら、現状を維持する。
- ・アカマツ伐採跡にサクラ(ヤマザクラ、オオシマザクラ)を新植する。
- ・侵入し、成長したイイギリ、クスノキ、ヤマグワを伐採する。
- ・シュロ、被圧を受けた樹木、衰弱木などの選択的除去を行う。
- ・低木層を除去し、2年から3年に1回の刈り取りを行う。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

陸上競技場と野球場を画したグリーンベルトである。
マツノザイセンチュウの影響で枯死したアカマツの樹齢は110年であった。

【備考】

【管理目標】

狭い空間であるが、雑木林の断片的姿を残しているのを、それを維持しながら明るい林にする。

【計画時の状況】

狭い空間であるが、雑木林の面影を残している。

【第一次管理計画】

・永年管理をしていなかったことから、雑多な樹木が生育している。
 ここにはアカマツだけを残り、他の侵入生育した樹木を伐採する。

階層ごとの管理

- ・高木層は現状を維持し、危険木の除去のみを行う。
- ・侵入生育した亜高木層の種を除去、伐採後は5年から10年に一度のチェックを行い、不要木の除去を行う。
- ・草本層は6月～7月に年1回の全面刈り取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 空手道場側に侵入生育したトウネズミモチの伐採を行い、扁形樹のカイツカイブキを伐採した。
- 草本層は年1回の全面刈り取りを行った。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・基本的には現状を維持する。
- ・侵入生育した亜高木層の種を除去、伐採後は5年から10年に一度のチェックを行い、不要木の除去を行う。
- ・草本層は6月～7月に年1回の全面刈り取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

高木層に雑木林の名残を示すアカマツとその後に植栽されたスダジイが混交した森である。今後も大学通りとの遮蔽を目的に現状を維持する。

【計画時の状況】

アカマツを中心とした高木構成にスダジイ、ヒマラヤシーダーを追加植栽しており、暗い林内になっている。ヒマラヤシーダーとアカマツとが競合している場所が多い。

【第一次管理計画】

- ・アカマツの保護を優先させ、アカマツを被圧するヒマラヤシーダーを伐採する。
- ・偏形樹などの特定木の選択的除去を行う。

階層ごとの管理

高木層は偏形樹など、特定木を選択的に伐採する。
 亜高木層は現状を維持する。
 低木層は現状を維持する。
 草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- アカマツと競合しているスダジイ、クスノキの枝の剪定を行った。
- 衰弱していたイロハモミジを除去した。
- × スダジイやクスノキの枝払いを行ったがヒマラヤシーダーの伐採は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・アカマツに被圧を加えている、アカマツと競合している ヒマラヤシーダーを選択的に伐採する。
- ・法人棟に面した場所にサクラの新植を行う。
- ・ササ育成のために上方からの光の確保に努める。

【目標植生模式図】



【特記事項】

アカマツを中心とする雑木林の高木構成にスダジイとヒマラヤシーダーを追加して植栽したため、密植により暗い林内になっている。

【備考】

【管理目標】

現状を維持し、防音、防塵、暴風、防火などの公益的機能を高める方向に誘導する。
そのために将来、亜高木層の形成を図り、高木層、亜高木層、低木層の3層を構成する。

【計画時の状況】

やや暗い空間になっているが林床には低木とクマザサが生育している。

【第一次管理計画】

- ・ササの育成を促進するために、人の立ち入りを制限し、光を確保する。
- ・イイギリを伐採する。

階層ごとの管理

- ・高木層は偏形樹など特定木を選択的に除去する。
- ・亜高木と低木にシラカシ、アオキなどの常緑を増やす。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- クスノキ、スダジイなどの偏形樹の除去を一部実施。
- イイギリの伐採を実施。
- × シラカシ、アオキ等の植栽は未実施。
- × 人の立ち入りは柵によって制限しているが、ササの生育を促すための樹木剪定は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・遮蔽効果が向上するよう、高木層の樹木管理、亜高木層、低木層の育成を図る。
- ・高木層は偏形樹など特定木、被圧木を選択的に除去する。
- ・亜高木と低木にシラカシ、アオキなどの常緑を増やす。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

外部との遮蔽林として十分な幅と密度を有しているの遮蔽効果を重要視して、遷移の進んだ常緑樹の多い武蔵野の雑木林の姿として維持する。

【計画時の状況】

武蔵野の雑木林の姿を示す林であるが管理を停止してかなりの時間経過している。シラカシ、アオキなど常緑樹種が多く生育している。

【第一次管理計画】

- ・手は加えないが校内散策のため1本だけ遊歩道を整備する。
- ・遊歩道整備予定周辺の危険木を除去する。
- ・兼松北側(現状を維持(枯死木は残し、危険木の除去のみを行う))
- ・マツノザイセンチュウの被害を受けて枯死したアカマツは伐採して除去する。
- ・兼松北側のシュロ4本伐採し、その跡にヤマザクラを補植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残し危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- 危険木は除去した。
- × マツノザイセンチュウの被害を受けて枯死したアカマツの除去は未実施。
- 兼松北側のシュロ4本伐採した。
- × ヤマザクラ補植は未実施。
- × 遊歩道は未整備。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・基本的には現状を維持するが、アカマツの枯死木を除去する。
- ・高木層は枯死木は残し危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

遷移の進んだ常緑広葉樹の多い武蔵野の雑木林の姿として維持する。

【計画時の状況】

武蔵野の雑木林の姿を示す林であるが管理をやめてかなりの時間、経過して、シラカシ、アオキなど常緑樹種が多く生育している。

【第一次管理計画】

- ・校内散策のため1本だけ遊歩道を整備する。
- ・遊歩道整備予定周辺の危険木を除去する。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行う場合は現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- 危険木を伐採した。
- × 校内散策のための遊歩道整備は未実施。
- × 遊歩道整備予定周辺の危険木除去は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上) A (計画通り) B (やや不十分) C (不十分)

【第二次管理計画】

- ・Ⅲ-③に連続して、次世代のコナラの補植を検討する。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行う場合は現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。
- ・歩道近くのイイギリは伐採する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

外部との遮蔽林として遮蔽効果を重要視して遷移の進んだ武蔵野の雑木林の姿として維持する。

【計画時の状況】

武蔵野の雑木林の姿を保つ林である。しかし下層にモウソウチクが侵入生育している。

【第一次管理計画】

・外との遮へい効果を高めるため、シラカシ、アオキなどの常緑樹の生育を促す。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- 危険木の除去を実施。
- 隣接エリア(Ⅱ-③)に侵入したモウソウチクを除去した。
- × 北門付近の外部との遮蔽は全く行えなかった。

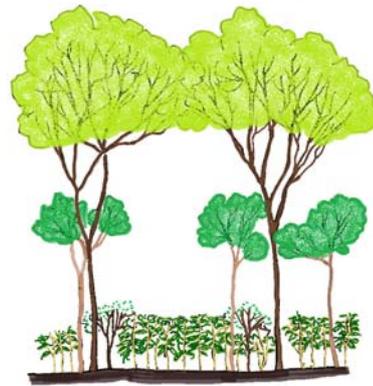
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・現状を維持するが、境界沿いにシラカシなどの常緑樹を植える。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

現状の姿を生かしながら、さらに遮蔽効果を高めるために植栽を行う。

【計画時の状況】

若干、雑木林の性質を残しているが、高木の本数が少ない。
樹木にクズの巻き付きが多く、クズに覆われている個所が多い。

【第一次管理計画】

- ・斜面にヤマザクラを植える。
- ・現状を維持し、シュロは遮蔽のために残す。
- ・隙間が多いので、斜面のアオキを台地にかけて移植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は偏形樹、危険木の選択的除去を行う。
- ・亜高木層は被圧木などの選択的除去を行う。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- 遮蔽効果と景観機能を高めるためにサクラを植栽した。
- 高木層の偏形樹、危険木の選択的除去を実施した。
- クズのツル切りを実施した。
- × 斜面のアオキを台地にかけての移植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・遮蔽のため、目隠しとなる樹木(常緑樹)を植える。
- ・斜面上部にアカマツの植樹を試行する。
- ・クズのツルが繁茂しやすいので、注意して管理する。
- ・高木層は偏形樹、危険木の選択的除去を行う。
- ・亜高木層は被圧木などの選択的除去を行う。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

コブシの大径木がある。
遮蔽効果を高めるために保護していたアオキ類が大量に無断で伐採される事件があった。

【備考】

【管理目標】

コナラを主体にアカマツが混生する雑木林の姿を残している地域であるが、アオキを中心に伐採され、外部との遮蔽効果が極端に低下した。遮蔽効果を回復させる維持するために亜高木と低木の生育を促進する。

【計画時の状況】

雑木林のアカマツを残しながら、ヤマザクラを植えた地域である。管理していないために、階層構造の形成が進んだ林である。

【第一次管理計画】

- ・現状の林の姿を維持し、防風、防塵機能を発揮することを期待する。
- ・現在ある散策路を生かして歩きやすいように両側1mは年1回刈る。
- ・ヤマザクラがテングス病にかかっているので伐採する。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- 樹勢の衰えたヤマザクラ、イヌザクラを除去した。
- マツノマダラカミキリによる松枯の対策を実施。
- テングス病にかかったサクラの枝除去を実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・現状を維持するが、亜高木と低木の育成に努め、早期の遮蔽効果の回復を図る。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層と低木層は現状を維持するが、場所によっては追加の植栽を考える。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

散策路が拡張されたランニングロードはこのエアリアを分断している。計画では、遮蔽効果を重要視し、散策する人が歩けるほどの歩道のある空間とすることを計画していた。しかし、無断で歩道が拡張されランニングコースが開設され、それと共に遮蔽効果を持っていたムクノキ、シロダモアオキなどの亜高木、低木が無断で伐採されてしまった。このため、ここに期待した遮蔽効果や野生動物保護効果は極端に低下した。関係者の尽力でランニングロードはコース変更された。植生の復元も徐々に進んでおり、生態環境も元に戻りつつある。

【備考】

【管理目標】

外周道路との遮蔽を目的に植栽された帯状の植栽地域である。
常緑の高木と亜高木からなる現状のタイプを維持する。

【計画時の状況】

外周道路との遮蔽を目的に植栽された地域である。

【第一次管理計画】

- ・侵入・生育しているムクノキやヤマグワを除去する。
- ・グラウンド側に突出しているシラカシ等の枝を落とす。
- ・ツル植物を除去をする。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は除去する。除去後2年から3年に一度の刈り取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 生育していたムクノキやヤマグワを除去した。
- 低木の刈り取りを実施した。
- グラウンド側の草本類の刈り取りを年1回実施した。
- 定期的につる植物の除去を行った。
- × グラウンド側に突出しているシラカシ等の枝を剪定したが樹形への配慮に欠けている。

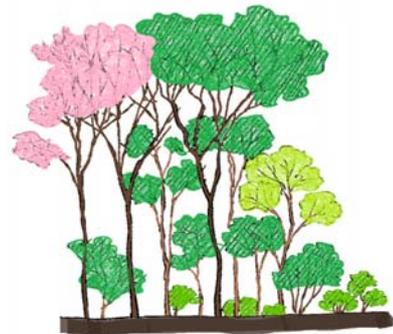
【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・今後も基本的に現状を維持する。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は除去する。除去後2年から3年に一度の刈り取りを行う。
- ・グラウンド側の地域は年1回の草本類の刈り取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

カンツバキが一定の密度で枝を張り、遮蔽効果が大きい。

【備考】

【管理目標】

現状を維持し、防音、防塵、暴風、防火などの公益的機能を高める方向に誘導する。
 そのために補植を行い高木層、亜高木層、低木層の3層をもつ林を構成する。

【計画時の状況】

造成された樹林地であるが、管理されていない。

【第一次管理計画】

- ・一部樹木を欠く部分にスダジイを新植し、手前にキンモクセイを植えることで遮へい効果を高める。
- ・トウネズミモチ、シュロを伐採する。
- ・植栽されているサツキとクマザサの住み分けをはっきりさせる。
- ・職員集会所庭木の日照を阻害しているスダジイの枝打ちを行う。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は除去する。除去後2年から3年に一度の刈り取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 定期的に亜高木層と低木層の管理を実施した。
- トウネズミモチ、シュロを除去した。
- スダジイ等の枝打ちを行った。
- サツキとクマザサの住み分けをはっきりさせ、剪定を行った。
- × スダジイ等の補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上) **A (計画通り)** B (やや不十分) C (不十分)

【第二次管理計画】

- ・高木から低木まで一定の密度で遮蔽効果をあげているので今後も維持に努める。
- ・一部樹木を欠く部分にスダジイを新植し、手前にキンモクセイを植え遮蔽効果を高める。
- ・植栽されているサツキとクマザサの住み分けをはっきりさせる。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は除去する。除去後2年から3年に一度の刈り取りを行う。
- ・グラウンド側の地域は草本類の刈り取りを年1回行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

風による倒木が発生した。

【備考】

【管理目標】

雑木林の性質を保つ林として維持するとともに亜高木と低木を増やし、遮蔽効果遮蔽効果を高める。

【計画時の状況】

雑木林の性質を残す林であるがシュロの生育が顕著である。

【第一次管理計画】

- ・シュロを除去し、モッコク、モチノキを補植する。
- ・東道路側にアオキなどの低木の補植する。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- 東本館北の危険木の除去を実施。
- シュロは一部を除去した。
- × モッコク、モチノキなどの常緑性の植栽は未実施。
- × アオキの補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・遮蔽効果を向上させるため、亜高木、低木の樹木の生育を図る。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持しながら、常緑の構成種を増やす。
- ・低木層は現状を維持するが、アオキを移植することを含め、その密度を高める。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

高木とササが主体で、亜高木と低木が不足している。

【備考】

【管理目標】

現状を維持するが道路側に常緑広葉樹種の列植を行い、遮蔽効果を高める。

【計画時の状況】

アカマツが残された明るい空間である。

【第一次管理計画】

- ・北側道路沿いに遮蔽のためにサザンカ、サカキ、モチノキなどを植栽する。
- ・シュロの除去を行う。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層はシュロ、被圧木などの選択的除去を行う。
- ・草本層は年1回6～7月に全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- シュロと被圧木の伐採除去を実施。
- 危険木の伐採除去を実施。
- トウネズミモチとヤマゲワの除去を実施。
- × 北側道路沿いにサザンカ、サカキ、モチノキなどの植栽は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・積極的に常緑樹を補植し、遮蔽効果を高める。
- ・フェンス付近の樹木の管理を行い、常緑樹の植栽を実施する。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は常緑樹を増やし、シュロ、被圧木などの選択的除去を行う。
- ・草本層は年1回6～7月に全面刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

明るい空間になっており、現状では遮蔽効果は殆ど発揮されていない。

【備考】

【管理目標】

アカマツとコナラなどの落葉樹を主体とした林帯として今後も現状を維持する。

【計画時の状況】

クヌギ、アカマツ、クリを含む雑木林の性質を残す林。

【第一次管理計画】

- ・遮蔽効果を高めるために亜高木性のモチノキ、ヤブツバキ、モッコクを植える。
- ・低木は、アオキ、カナメモチを補植する。
- ・遮蔽効果が期待できるアズマネザサは当面現状を維持する。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- 修景のためにアカマツの枝の整理を実施。
- シュロ、被圧木は部分的に除去。
- × モチノキ、ヤブツバキ、モッコクなどの常緑樹の補植は未実施。
- × 低木のアオキ、カナメモチの補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・枯死木、危険木の除去を行う。
- ・クマザサの生育場所ではアズマネザサは除去し、クマザサの生育を助ける。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・低木層は現状を維持する。
- ・草本層は手を加えず現状を維持する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

狭い林帯であるが、遮蔽効果の発揮が期待できるゾーンである。

【備考】

【管理目標】

現状を維持するが道路側に常緑広葉樹種の列植を行い、遮蔽効果を高める。

【計画時の状況】

道路に面した側に落葉樹、内側にクロガネモチの常緑樹が植栽された地域。

【第一次管理計画】

- ・道路側の遮蔽効果を高めるため常緑樹を新植する。
- ・フェンス際にドウダンツツジ、オオムラサキなどの低木を植える。

階層ごとの管理

- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・亜高木層は現状を維持する。
- ・コート側の地域は草本層は手を加えず現状を維持する。

【管理の進捗状況】

- トウネズミモチ、シユロなどの樹木を除去した。
- × 常緑樹の新植は未実施。
- × 低木類の補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	-----------------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・遮蔽効果を高めるため、常緑樹種を中心とした植樹を進める。
- ・高木層は枯死木は残り危険木の除去を行うほかは現状を維持する。
- ・バレーボールコート側のシラカシは枝を間引く。
- ・コート側のサクラなどの枯損木を整理する。
- ・トウネズミモチは除去する。亜高木層は現状を維持する。
- ・マーキュリータワー側の枯れたクヌギとニセアカシアは整理する。
- ・道路沿いにあるドウダンツツジの植栽を追加実行した。
- ・クズの生育が見られるので、これを除去する。
- ・コート側の地域は草本層は手を加えず現状を維持する。
- ・マーキュリータワー側の地域は年1回の草本類の刈り取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

道路側の遮へい効果を高めるため樹木を新植する。

【計画時の状況】

樹木を欠く空間になっており、クズ、ヤブガシラなどのツル植物と帰化植物のオオバタクサの繁茂が著しい。

【第一次管理計画】

- ・南側内部にヤマザクラを新植する。
- ・南東側にサザンカを補植する。
- ・草木の刈り取り、ツル植物の除去を行う。

階層ごとの管理

- ・草本層はフェンス側は手を加えず現状を維持する。それ以外の場所は6月～7月にかけて年1回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 6月～7月にかけて年1回の全面刈取りを行った。
- 如意団部屋周辺にヤマザクラ、ギョイコウ、ヤブツバキなどの寄贈植樹を実施した。
- 外周フェンスが整備された。

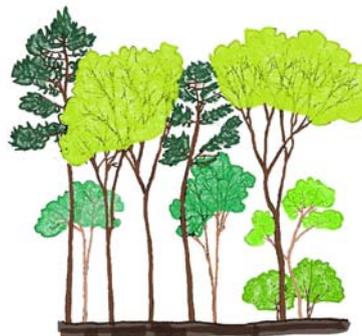
【進捗度評価】

S (計画以上) **A** (計画通り) **B** (やや不十分) **C** (不十分)

【第二次管理計画】

- ・現状を維持し、必要に応じて新植を検討する。
- ・草本は6月～7月に定期的な刈り取りを実施する。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

【管理目標】

現在生育している樹木を生かしながら、その間にモチノキ、クロガネモチ、シラカシなどの常緑樹を新植して遮へい効果を高める。また、景観に配慮した低木の配置に努める。

【計画時の状況】

イチヨウ、サクラを中心とする樹林帯。道路側にオオムラサキの植栽がある。

【第一次管理計画】

- ・テニスコート東側では、ウメの枯損木とトウネズミモチを除去する。
- ・柔道場のマテバシイは伐る。アオギリは残す。
- ・マーキュリータワーの南側では常緑樹を補植する。

階層ごとの管理

高木層は現状を維持し、枯死木は残して危険木を除去する。
 亜高木層は常緑樹種を補植する。
 低木層はオオムラサキ、アオキを補植する。
 草本層は6月～7月にかけて年1回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- マーキュリータワーの南にプラタナスを新植した。
- 卒業記念にカルミア、ホソバシャクナゲを新植した。
- ウメの枯損木とトウネズミモチは除去した。
- 6月～7月に草本類の年1回の全面刈取りを行った。
- × 常緑樹の補植は未実施。
- × オオムラサキ、アオキの補植は未実施。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・現在生育する樹木を生かし、その間に常緑樹を新植して遮蔽効果を高める。
- ・景観に配慮した低木の配置をする。
- ・カルミア(卒業記念植樹)は日当たりのよい場所に移植する。
- ・プラタナス1本枯死。サクラを代替に植えることを考える。
- ・草本層は6月～7月にかけて年1回の全面刈取りを行う。
- ・マーキュリータワー南側生垣のツル取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

卒業生による植樹は日陰に植栽されており、衰弱気味である。

【備考】

【管理目標】

日本人の原風景の一つである九州と関東のススキ草原を造成する。

【計画時の状況】

ツル植物と帰化植物の多い空間である。

【第一次管理計画】

- ・ススキ、オミナエシ、フジバカマ、マルバハギ、リンドウ、キキョウを植える。
- ・植栽した種の草刈りは早春(3月中～下旬)に行う。

階層ごとの管理

- ・植栽した以外の草本は6月～7月にかけて年1回の全面刈取りを行う。

【管理の進捗状況】

- 第一ススキのゾーン＝陸上競技場南側に造成。
- 西日本のDNAをもつ秋の七草(クズを除く)種を植えた。
- 第二ススキのゾーン＝空手道場前(東側)に造成し、そこにはH22年東日本のDNAをもつ種を植えた。
- H23年オオブタクサが発生したので刈取りを実施した。

【進捗度評価】

S (計画以上)	A (計画通り)	B (やや不十分)	C (不十分)
----------	----------	-----------	---------

【第二次管理計画】

- ・オオブタクサ、アズマネザサなどの定期的な刈取りと除去を行う
- ・山岳部部室前のクロチクも増殖部分は除去する。
- ・植栽したもの以外の草本は6月～7月にかけて年1回の全面刈取りを行う。

【目標植生模式図】



【特記事項】

【備考】

5. 大径木の分布

近年、キャンパス内に生育していたアカマツがマツノザイセンチュウによる害で枯死し、急激に本数を減らしている。これに加えて、開校以来、100年近く生育してきた「武蔵野の雑木林」の樹木も、今後、寿命を迎え、徐々に衰退することも考えられる。そこで、現段階で、どれくらいの大径樹木がキャンパス内に生育するかを植樹会メンバーが中心になって計測した。計測を実施したのは幹回り 200 cm 以上の個体である。その集計結果を表 1-A, B に示し、集計結果を表 2 に示した。また、その分布位置を図 2 に示した。

	西キャンパス	東キャンパス	合計
常緑針葉樹			
アカマツ	60	24	84
ヒノキ	6	0	6
サワラ	6	4	10
モミ	1	0	1
コウヤマキ	1	0	1
ヒマラヤシーダ	11	2	13
落葉針葉樹			
メタセコイア	1	2	3
イチヨウ	14	17	31
常緑広葉樹			
スダジイ	11	1	12
シラカシ	1	2	3
クスノキ	7	0	7
落葉広葉樹			
ヤマザクラ	19	0	19
イヌザクラ	5	0	5
ソメイヨシノ	22	3	25
シダレザクラ	1	0	1
サトザクラ(カンザン)	1	0	1
コナラ	24	3	27
クヌギ	5	2	7
ケヤキ	11	0	11
エノキ	4	0	4
ムクノキ	1	1	2
イロハモミジ	2	0	2
コブシ	1	0	1
モミジバスズカケ	1	0	1
合計	216	61	277

これによると、国立キャンパス内には幹回り 200 cm 以上の樹木個体が西キャンパス 216 本、東キャンパス 61 本の合計 277 本が生育している。その中で最も生育本数の多いのはアカマ 84 本で西キャンパスに 60 本、東キャンパスに 24 本が生育している。このアカマツは近年、マツノザイセンチュウの被害で枯損が進んでいる。一橋大学国立キャンパスを代表する樹種であり、校歌にも唄われている樹種でもあ

ることから、今後も大切に保護したいものである。また、コナラは27本、クヌギは7本である。これらの種はアカマツと共に武蔵野の面影を残すのに大きく役立っており、貴重である。イチョウで西キャンパスに14本、東キャンパスに17本の計31本が生育している。この種は本校が一橋にあった時にもそこに植えられていた樹種であり、一橋大学の歴史を特徴づける種であることから大切にしたい。春の学内に華やかに咲き乱れて新入生を迎えるサクラ類は野生のヤマザクラ、イヌザクラ、園芸品種のソメイヨシノ、シダレザクラ、カンザンなど、51本ある。そのうちではソメイヨシノが最も多く25本であるが、近年、樹勢の衰退が目立っており、治療を含めた今後の管理が必要になっている。また、コウヤマキ（高野槇）、モミ（樅）などは、この近くではこのような大径木は見られない樹種である。また、急激に姿を消したモミの大木が残っていることにも注目したい。

大径木分布図（幹回り200cm以上）

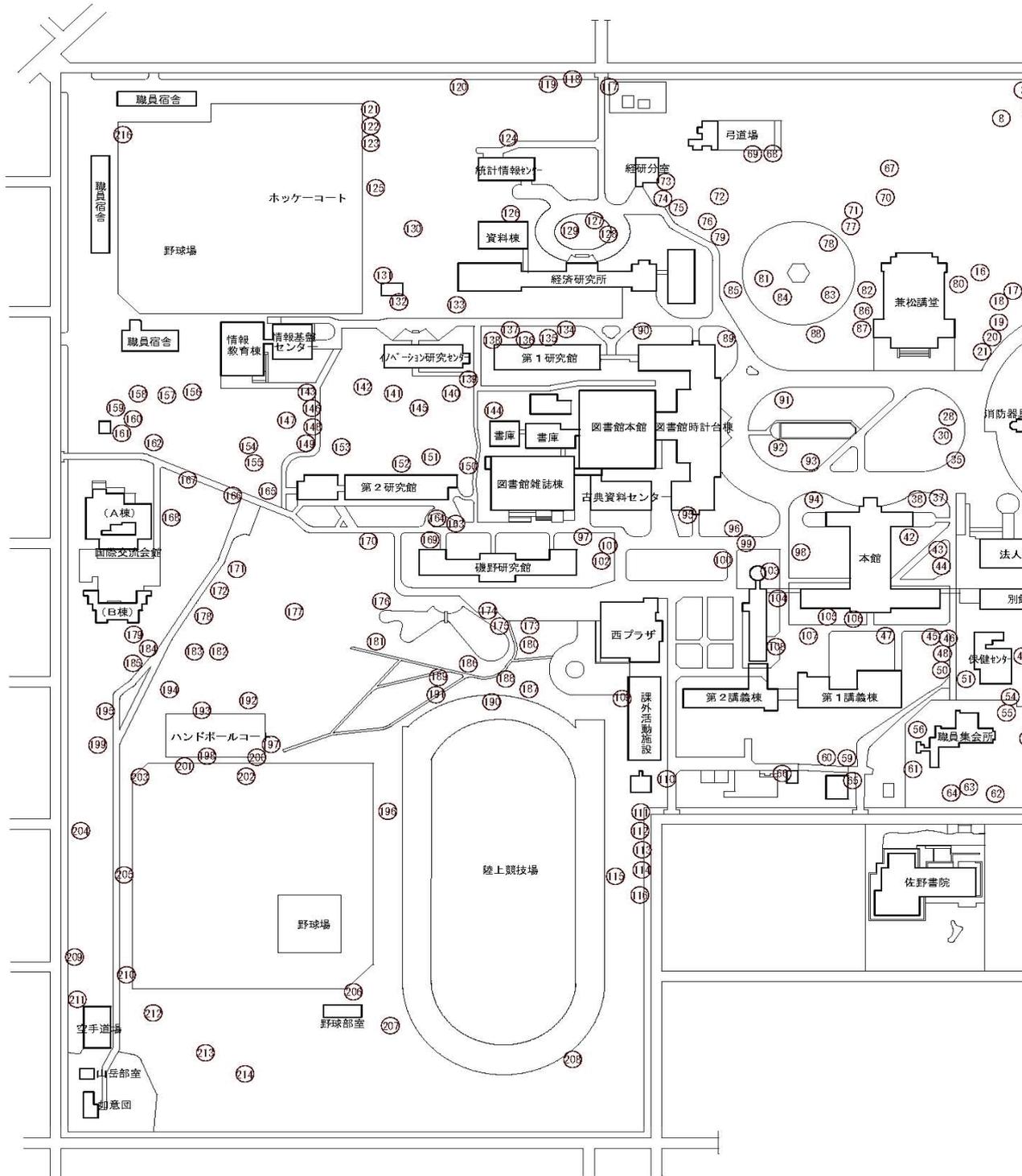


図-2

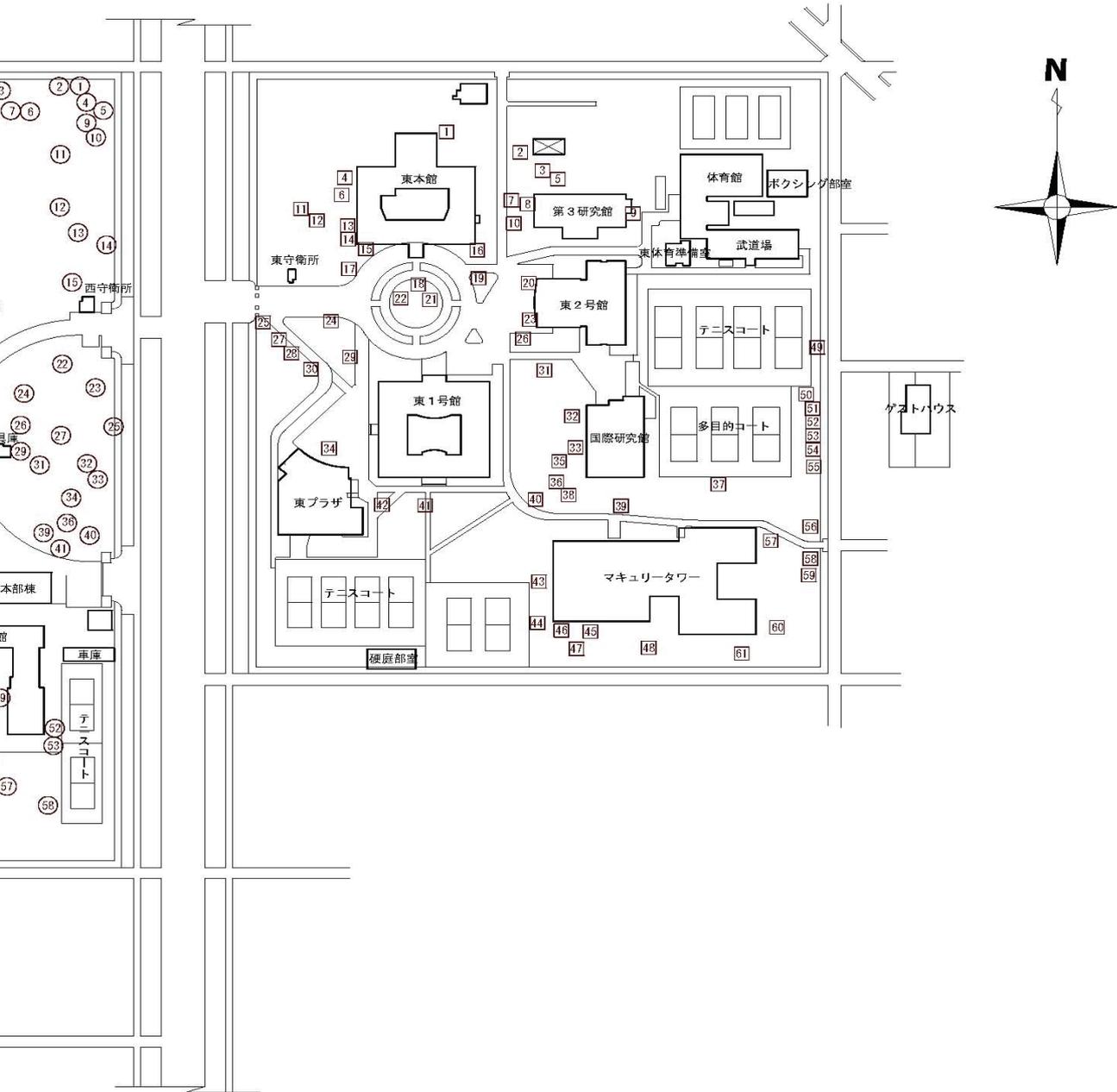


表1-A

大径木一覧表(幹回り200cm以上)

西キャンパス

番号	樹木名	幹回り(cm)	番号	樹木名	幹回り(cm)	番号	樹木名	幹回り(cm)
1	アカマツ	230	41	アカマツ	200	81	アカマツ	230
2	アカマツ	230	42	クスノキ	388	82	クスノキ	275
3	アカマツ	205	43	コウヤマキ	215	83	ソメイヨシノ	285
4	アカマツ	260	44	ヤマザクラ	273	84	ソメイヨシノ	200
5	アカマツ	215	45	ヤマザクラ	220	85	イチヨウ	345
6	アカマツ	220	46	イチヨウ	200	86	イチヨウ	320
7	アカマツ	265	47	ヤマザクラ	200	87	メタセコイア	255
8	アカマツ	245	48	ソメイヨシノ	237	88	ケヤキ	190,120,155,88, 169,100,80,324
9	アカマツ	215	49	クスノキ	310	89	イチヨウ	341
10	アカマツ	200	50	イチヨウ	294	90	アカマツ	235
11	アカマツ	235	51	イロハモミジ	221	91	イチヨウ	210
12	コナラ	200	52	アカマツ	241	92	アカマツ	205
13	エノキ	260	53	イチヨウ	245	93	イチヨウ(株立ち6本)	413
14	スダジイ	246	54	スダジイ	234	94	イチヨウ	260
15	ヒマラヤシーダ	230	55	ヒノキ	261	95	アカマツ	222
16	ソメイヨシノ	250	56	スダジイ	212	96	アカマツ	222
17	サワラ	200	57	ヒノキ	228	97	ヒマラヤシーダ	333
18	サワラ	200	58	サワラ	209	98	イチヨウ	209
19	ヒマラヤシーダ	203	59	ヤマザクラ	205	99	スダジイ	280
20	イチヨウ	235	60	コナラ	302	100	スダジイ	280
21	イチヨウ	210	61	コナラ	208	101	ヒマラヤシーダ	303
22	アカマツ	246	62	スダジイ	215	102	ヒマラヤシーダ	303
23	ヤマザクラ(株立ち4本)	240	63	アカマツ	241	103	アカマツ	213
24	イロハモミジ	224	64	スダジイ	202	104	ソメイヨシノ	298
25	ヒマラヤシーダ	270	65	ヤマザクラ	237	105	ソメイヨシノ	210
26	アカマツ	230	66	クスギ	220	106	クスノキ	375
27	ヒマラヤシーダ	245	67	クスギ	260	107	アカマツ	240
28	アカマツ	230	68	アカマツ	260	108	ソメイヨシノ	256
29	スダジイ	220	69	アカマツ	220	109	アカマツ	224
30	アカマツ	216	70	サワラ	240	110	ソメイヨシノ	442
31	スダジイ	205	71	モミ	210	111	ソメイヨシノ	214,125,75,122
32	ヒマラヤシーダ	222	72	アカマツ	230	112	ソメイヨシノ	286
33	ヒマラヤシーダ	240	73	コナラ	200,150,170	113	ケヤキ	290
34	ヒマラヤシーダ	223	74	ソメイヨシノ	210	114	ソメイヨシノ	328
35	アカマツ	230	75	アカマツ	206	115	シラカシ	205
36	ヒマラヤシーダ	200	76	コナラ	275	116	ケヤキ	222
37	シダレサクラ	273	77	エノキ	345	117	ソメイヨシノ	290
38	アカマツ	204	78	サワラ	210	118	ケヤキ	395
39	クスノキ	185,230	79	アカマツ	245	119	ケヤキ	270
40	スダジイ	220	80	ソメイヨシノ	250			

番号	樹木名	幹回り(cm)	番号	樹木名	幹回り(cm)	番号	樹木名	幹回り(cm)
120	エノキ	93,177,243	160	コナラ	233	200	イヌザクラ	266
121	コナラ	205	161	クヌギ	206	201	ヤマザクラ	255
122	コナラ	208	162	クヌギ	220	202	ヤマザクラ	220,140,155
123	コナラ	219	163	アカマツ	211	203	ヤマザクラ	254
124	ソメイヨシノ	205	164	アカマツ	250	204	ソメイヨシノ	243
125	アカマツ	231	165	コナラ	245,140,140	205	ヤマザクラ	200
126	ケヤキ	241	166	ヒノキ	220	206	アカマツ	214
127	コナラ	218	167	ヒノキ	211	207	アカマツ	202
128	アカマツ	218	168	イチョウ	300	208	ケヤキ	322
129	コナラ	215	169	ケヤキ	211	209	コブシ	200,210
130	アカマツ	235	170	コナラ	213	210	カンザン	290
131	コナラ	202	171	コナラ	202	211	ソメイヨシノ	223
132	アカマツ	200	172	コナラ	200	212	ヤマザクラ	290
133	アカマツ	208	173	クスノキ	245,215	213	ソメイヨシノ	247
134	アカマツ	215	174	クヌギ	214	214	ソメイヨシノ	247
135	アカマツ	226	175	イヌザクラ	250	215	イヌザクラ	210
136	アカマツ	206	176	コナラ	200	216	ソメイヨシノ	230
137	アカマツ	226	177	コナラ	260			
138	アカマツ	240	178	アカマツ	243			
139	エノキ	280	179	ヤマザクラ	223			
140	ケヤキ(株立ち11本)	455	180	クスノキ	362			
141	サワラ	265	181	スダジイ	225			
142	イヌザクラ	245	182	ヤマザクラ	223			
143	アカマツ	200	183	ケヤキ	283			
144	アカマツ	215	184	ヒノキ	220			
145	ケヤキ(株立ち10本)	435	185	ヒノキ	230			
146	アカマツ	220	186	アカマツ	205			
147	コナラ	235	187	スズカケノキ	327			
148	アカマツ	205	188	イチョウ	215			
149	アカマツ	220	189	コナラ	235			
150	コナラ	258	190	ソメイヨシノ	233			
151	アカマツ	205	191	アカマツ	230			
152	ムクノキ	265	192	ヤマザクラ	255			
153	ソメイヨシノ	200	193	ヤマザクラ	275			
154	コナラ	225	194	ヤマザクラ	215			
155	コナラ	200	195	アカマツ	202			
156	アカマツ	208	196	ヤマザクラ	208			
157	アカマツ	215	197	ヤマザクラ	200			
158	アカマツ	210	198	イヌザクラ	263			
159	コナラ	260	199	ヤマザクラ	213,219			

表1-B

東キャンパス

番号	樹木名	幹回り(cm)	番号	樹木名	幹回り(cm)
1	アカマツ	200	41	コナラ	174,208
2	イチョウ	200	42	アカマツ	200
3	イチョウ	203	43	シラカシ	228
4	イチョウ	242	44	シラカシ	218
5	スダジイ	240	45	ソメイヨシノ	261
6	イチョウ	242	46	サワラ	215
7	イチョウ	300	47	イチョウ	351
8	サワラ	240	48	イチョウ	316
9	コナラ	207	49	イチョウ	215
10	イチョウ	213	50	サワラ	230
11	アカマツ	257	51	アカマツ	234
12	アカマツ	218	52	イチョウ	335
13	イチョウ	213	53	イチョウ	220
14	イチョウ	200	54	アカマツ	214
15	ヒマラヤシーダ	308	55	アカマツ	204
16	ヒマラヤシーダ	330	56	クヌギ	258
17	アカマツ	206	57	イチョウ	227
18	ソメイヨシノ	229	58	サワラ	248
19	ソメイヨシノ	234	59	クヌギ	257
20	イチョウ	251	60	コナラ	293
21	メタセコイア	370	61	ムクノキ	211
22	メタセコイア	267			
23	イチョウ	271			
24	イチョウ	220			
25	アカマツ	230			
26	アカマツ	200			
27	アカマツ	212			
28	アカマツ	230			
29	アカマツ	200			
30	アカマツ	253			
31	アカマツ	222			
32	アカマツ	205			
33	アカマツ	223			
34	アカマツ	204			
35	アカマツ	205			
36	アカマツ	200			
37	アカマツ	288			
38	アカマツ	254			
39	アカマツ	222			
40	アカマツ	209			

6. 新植栽木の分布

第一次緑管理計画でもこの図は作成され、それにしたがって記念樹の新植や植え替えが進められてきた。現在でも各ゾーン内には植栽を必要とする場所もあるし、危険木や衰弱木を伐採し、その後の空間に新たに植栽することが必要な場所もある。今回の計画策定にあたって、前回と同様に現地を調査し、植栽位置の特定と植栽樹種を特定して図3に示した。

前回と同様に、この基本的な考えはタイプⅠの「開放を前提としたゾーン」では、これまでに植栽された種類の低木の補植が主体になっている。タイプⅡの「花木を主体にした植栽ゾーン」ではかつて植栽されたのと同じようにサクラ類を主体に計画しているが、樹種に関しては場所の環境に応じて検討する計画である。

タイプⅢの「武蔵野の面影を維持するゾーン」では「武蔵野の雑木林」の姿を維持する立場から、その主な構成種であるコナラ、クヌギを主体に植栽する。また、ここでは武蔵野の雑木林の構成種であるヤマザクラ、イヌザクラなどの野生のサクラ類の植栽も予定している。

新植栽木分布図

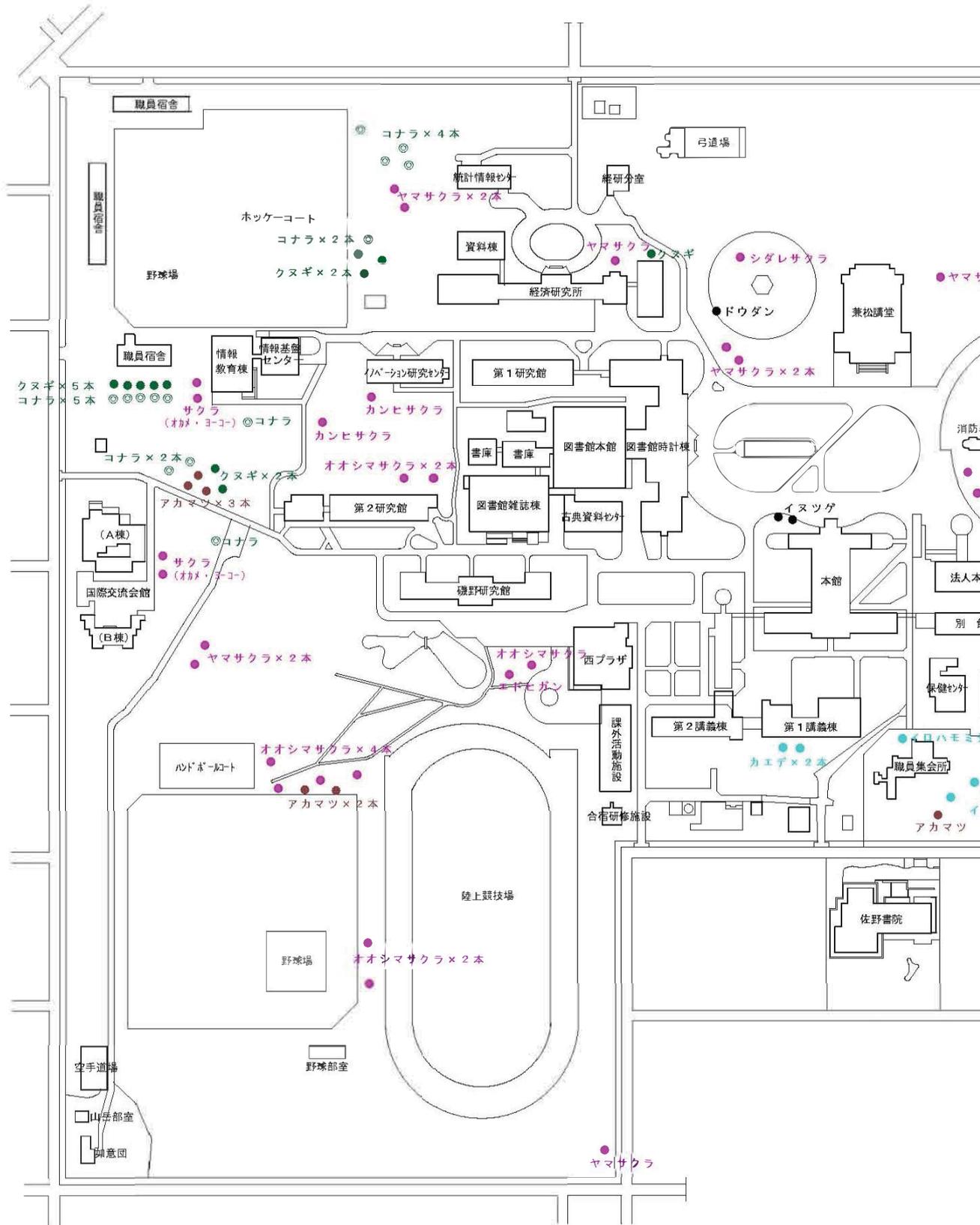
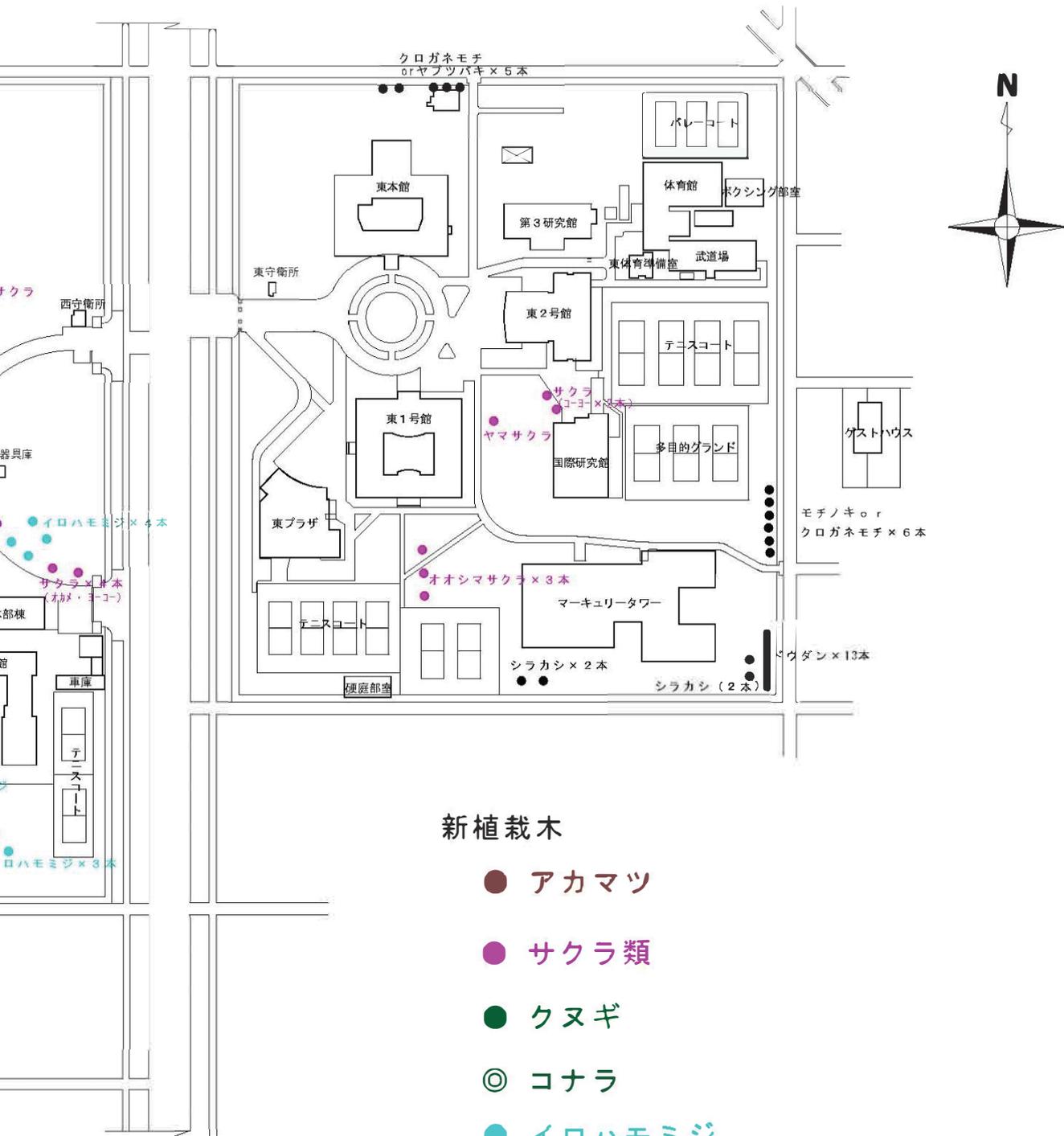


図-3



新植栽木

- アカマツ
- サクラ類
- クヌギ
- ◎ コナラ
- イロハモミジ
- その他

7. 記念植樹の分布

キャンパス内には、一橋大学が国立キャンパスに移転して以来、多くの記念植樹がなされてきた。85年もの歴史を持つキャンパスは多くの卒業生を送り出し、卒業生はキャンパス内に記念植樹を行ってきた。それ自体が大学の記念であり、同時に、財産である。そこで様々な記述を基にして植樹された場所、樹種を調査した。その一覧が表3であり、分布を示すものが図-4である。記念樹は建物周囲に分布しているが、管理が十分でなかったためか、多くの記念樹が今は見られない。今後、記念樹を大切にするために、記念植樹種のあり方と植樹場所について検討する必要がある。

表 3

国立キャンパス記念植樹一覧表

○No 現存する記念植樹

※複数本の記念植樹は連番

□No 記録に残っているが現存しない記念植樹

□NoA 植え替えた記念植樹

1. 正門付近

樹木番号	記念植樹寄附者名(敬称省略)	樹木名	植樹時期	場 所
①	明治38年(パイオニア会)	イチヨウ	S42	正門通両脇
②	明治38年(パイオニア会)	ドウダン	S43	正門通両脇
③	大正4年(4日会)50周年	シイ4本・他	S40年	正門左横
④	大正4年(4日会)50周年(推定)	シイ4本・他(ユリノキ)	S40年	正門並木南・中央防音林
⑤	大正4年(4日会)50周年(推定)	シイ4本・他(タイサンボク3本)	S40年	正門並木北・東北防音林
⑥	昭和7年会	ヒマラヤスギ20本、シイ6本	S42年	並木北・東北防音林
⑦	泰山会	モチノキ	—	消防器具庫西側
⑧	丸紅出版有志	ヒマラヤスギ5本	S42年	旧守衛所裏

2. 兼松講堂周辺

⑨	石川善次郎氏(推定)	ウメ5本の1本、シュロ20本、柿その他		兼松前東
⑩	大正15年門養会	モッコク	S51年	兼松講堂南東角
⑪	植樹会記念植樹	サトザクラ(フゲンゾウ)	H18	兼松前東
11B	六水会有志	サトザクラ(カンザン)	H23.11	兼松東
⑫	石川善次郎氏(推定)	シュロ 4 本		兼松正面東
⑬	石川善次郎氏(推定)	シュロ 6 本		兼松正面西
⑭	有水真吾さん入学の思い出	サトザクラ(フゲンゾウ)	H20年	兼松講堂西
⑮	大正2年・二日会45周年	キャラボク	—	兼松講堂西
⑯	昭和5年30周年	イチヨウ	S35年	兼松講堂西
⑰	明治36年	イチヨウ、ドウダン	—	兼松講堂西
⑱	大正6年	石碑のみ、神田から移動	H6年	兼松講堂西
⑲	大正7年	石碑のみ、神田から移動	H6年	兼松講堂西
⑳	大正8年	石碑のみ、神田から移動	H6年	兼松講堂西
㉑	大正9年	石碑のみ、神田から移動	H6年	兼松講堂西

3. 矢野二郎像周辺

⑳	昭和11年会	クロマツ1本	S41年	矢野像前
㉑	昭和10年	クロマツ4本	S40年	矢野像前
㉒	大正15年会	クロマツ1本庭石1	S41年	矢野像前
㉓	昭和11年35周年・八紋会	クロマツ	S46年	矢野二郎像南
㉔	青々会	マツ1本	S50年	兼松講堂南西
㉕	昭和12年会	シラカバ30本(枯死)、その他(八重桜)	S42年	矢野像前
27B	明治18年	イチヨウ		

4. 経済研究所周辺

㉖	応援部創立25周年	ゴヨウマツ	S55年	経研南東
㉗	石川善次郎氏	ウメ5本の1本、シュロ20本、柿その他	S46年	経研南中
㉘	石川善次郎氏	シュロ30本のうち3本、ウメ5本、柿その他	S46年	経研南中
㉙	昭和15年会	トウカエデ10本、イチヨウ	S41年	経研南
㉚	ブロンフェンブレンナー	ハナミズキ10本(枯死)	S41年	経研南

5. 第2研究館～ホッケーコート周辺

㉛	昭和14年50周年	シャラノキ(枯死)	S64年	第2研究館北側
㉜	五大会(昭和5年)	コブシ1本	S55年	第2研究館西
㉝	昭和12年50周年	ケヤキ2本	S62年	第2研究館北側
㉞	S10年50周年	ツゲ	S60年	総合情報処理センター
㉟	ホッケー部一橋VSソウル大対抗記念	オオシマザクラ(日本)、ムクゲ(韓国)	H13年	ホッケーコート横
㊱	ロンドン支部	カイズカイブキ	S51年	統計文献センター玄関横

6.中央庭園周辺

樹木番号	記念植樹寄附者名(敬称省略)	樹木名	植樹時期	場 所
③9	昭和15年会	イチョウ、トウカエデ10本	S41年	経研南
④0	明治29年	モチノキ	—	時計台東
④1	昭和12年会	八重桜5本	S42年	図前池南
④2	ニューヨーク支部、大学100周年	キンモクセイ	S50年	図書館前池北側
④3	昭和11年門養会一一会35周年	モッコク	S46年	図書館前池北側
④4	昭和18年25周年・専養会	シラウメ	S43年	図書館前池北側
④5	三水会	コウバイ	S49年	図前池北
④6	大正6年	サザンカ	S43年	佐野像南側
④7	真壁喜三郎氏(大正15年卒)	ヤマモモ	S45年	本館入口前
④8	井の頭支部創立50周年	ハナミズキ	H14年	図書館前南側
④9	大正5年会	ツバキ2本、庭石2個	S41年	図前池南
⑤0	昭和31年25周年	シダレザクラ	S56年	時計台南西
⑤1	昭和31年50周年	ベニシダレモミジ	H18年	時計台南西
⑤2	昭和31年度会	キャラ1本	S59年	図前南
⑤3	昭和11年(臥竜会)40周年	サルスベリ、ツツジ	S52年	古典資料センター

7.西プラザ周辺

⑤4	三石会	ハナミズキ	H20.9	西プラ北庭園
⑤5	市原ゼミ	ゴヨウマツ	S60年	西プラザ北側
⑤5B	妙高町田山寮記念	ハナミズキ	H24	西プラザ北側
⑤6	小泉明、高橋朝次郎、加藤弥平衛氏	ゲッケイジュ	S52年	西プラザ北側
⑤7	昭和9年50周年	キャラボク(枯死)	S59年	西プラザ北側・枯死
⑤7B	植樹会学生理事	国立お花畑(各種の花)	H23	西プラザ北側

8.本館周辺

⑤8	明治28年	ドウダンツツジ4株	—	本館西側
⑤9	明治41年	モチノキ	—	本館正面西側
⑥0	(十四日会)・大正12年	キンモクセイ、ドウダンツツジ	—	本館正面東
⑥1	昭和17年	クルメツツジ・シダレザクラ	S43年	本館正面東
⑥2	明治24年(辛卯会)	ヒマラヤスギ(枝落下、安全のため伐採)	—	本館東側
⑥3	明治42年	ヒマラヤスギ(枝落下、安全のため伐採)	—	本館東側
⑥4	昭和七年会	コウヤマキ		本館東側
⑥5	昭和4年30周年	イチョウ	S34年	本館南側
⑥6	昭4会	キャラボク	S54年	本館南側
⑥7	明治42年50周年	イチョウ	S34年	本館南側
⑥8	大正6年	モッコク	—	保健センター前
⑥9	大正7年40周年	イチョウ	S33年	保健センター前
⑦0	大正11年(第一倶楽部)56周年	ハナミズキ	S53年	本館南側
⑦0B	大正11年(第一倶楽部)20周年	ドウダンツツジ4株	S16年	本館南側
⑦1	明治44年	イチョウ3本	—	本館東側
⑦2	間四朗氏(明治44年卒)	キリシマツツジ	S44年	第一講義棟北側
⑦3	大正14年門養会	モチノキ	S51年	本館の新館のアイダ
⑦4	サンフランシスコ支部	ツゲ	S51年	第一講義棟北側
⑦5	昭九会	シュロ2本、ツバキ2本	S53年	本館の新館のアイダ
⑦6	大正2年25周年・ダブリ	タイサンボク	S13年	本館西側
⑦7	明治43年	キンモクセイ	—	本館西側
⑧0	卒業生記念植樹・卒業生有志	サクラ(関山)	H24	第二講義棟南

9.磯野研究館～ひょうたん池周辺

樹木番号	記念植樹寄附者名(敬称省略)	樹木名	植樹時期	場 所
⑦8	明治41年	八重桜(関山)		磯研東
⑦9	大正5年会	イチヨウ2本	S45年	磯研南
⑦9B	大正5年会	イチヨウ2本	S45年	
⑧0	小宮山喜之助氏	フェニックス	S41年	瓢箪池北側・消滅?
⑧1	昭和16年会	モクセイ	S41年	磯研前西
⑧2	真壁喜三郎1回目(大正15年卒)	柳1本、山茶花椿数10本	S41年	瓢箪池まわり南東
⑧3	真壁喜三郎2回氏(大正15年卒)	シラカバ数十本、ドウダン、その他	S42年	瓢箪池まわり南
⑧4	真壁喜三郎2回目寄贈	その他(クスノキ2本)	S42年	磯研南
⑧5	真壁喜三郎2回目(大正15年卒)	その他(ユリノキ、スズカケノキ)	S42年	瓢箪池まわり東
⑧6	卒業生有志	ドウダン5本	S43年	瓢箪池南
⑧7	真壁喜三郎氏(大正15年卒)	クス3本(芳)	S43年	磯研南
⑧8	大正9年50周年	イチヨウ	S45年	瓢箪池東で:西プラザ前
⑧9F	植樹会記念植樹	ケヤキ	H23年	西プラザ前
⑧9	植樹会記念植樹	コナラ、クスギ	2009年3月	陸上競技場北西
⑨0	太田先生をしのぶ会	つどいの森一式	S54年	瓢箪池南西

10.如意団周辺

⑨1	植樹会記念植樹	サトザクラ3本、カンツバキ5本	H19.3	如意団部室周辺
⑨2	植樹会記念植樹	サトザクラ3本、ウバメガシ5本	H20.3	如意団部室周辺
⑨3	植樹会記念植樹	サトザクラ(御衣黄)1本	H22.3	如意団部室周辺
⑨4	昭九会	カキ4本、サクラ3本	S53	陸競技場東

11.東キャンパス

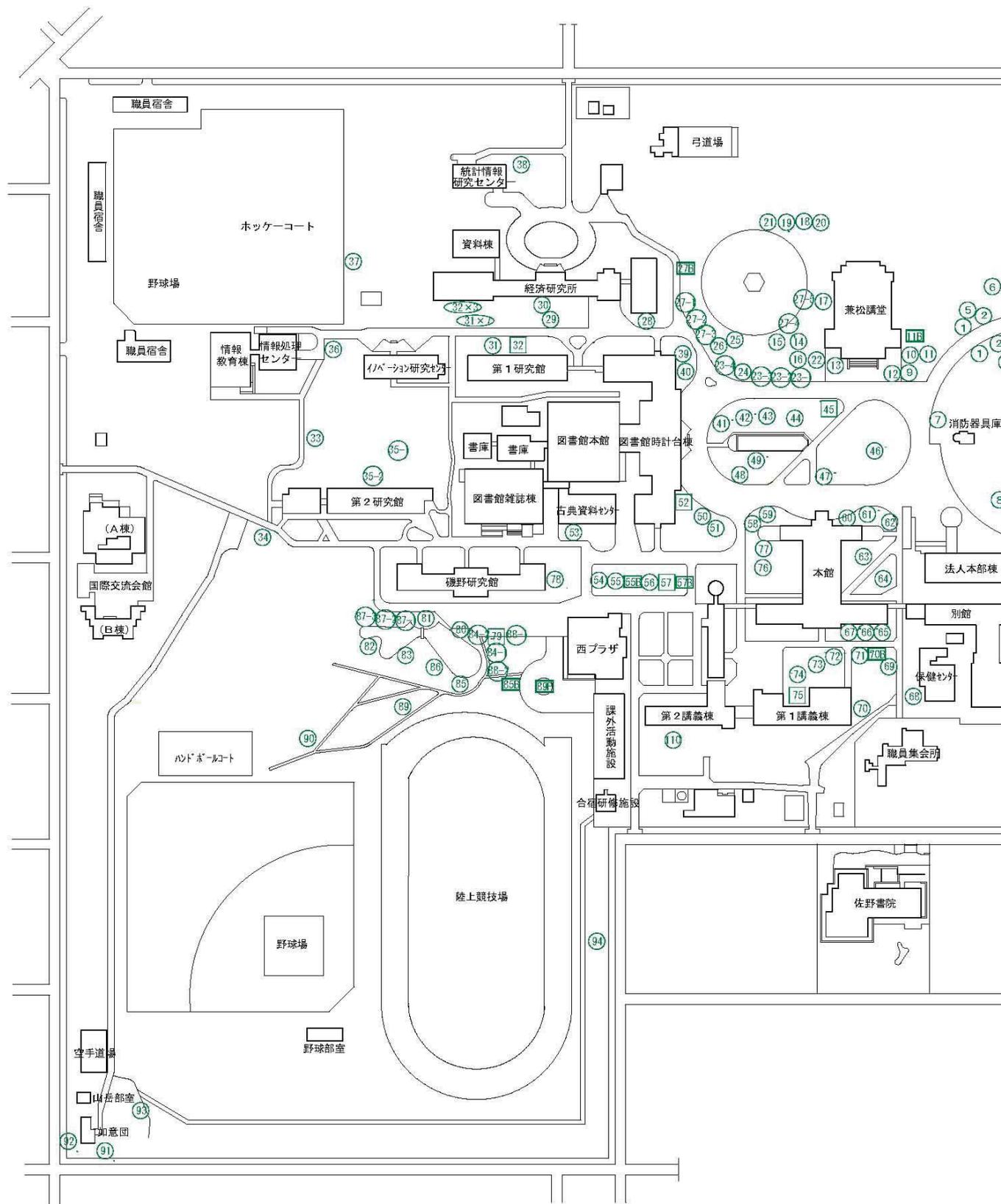
⑨5	昭和5年	イチヨウ	—	東守衛所東横
⑨6	昭和18年(専養会)	モッコク	S44年	掘先生東
⑨7	大正15年15周年	モチノキ	S16年	東本館前左
⑨8	昭和18年(専養会)	サルスベリ	S44年	東校舎丸池中央
⑨9	昭五会	モチノキ	S52年	東校舎丸池内西側
⑩0	土井清圭	イチヨウ(推測)	S53年	東丸池外東
⑩1	昭和14年門養会、大学100周年	モチノキ	S50年	国際研究館西側
⑩2	荒ゼミ(憲芳会)	プラタナス(アメリカスガケノキ)	H16年	マーキュリータワー南側
⑩3	明治30年(さんじゅう年会)	イチヨウ	—	東正門南側
⑩4	卒業生記念植樹・卒業生有志	シャクナゲ、カルミア	H19	東校舎東門北
⑩5	卒業生記念植樹・卒業生有志	レンギョ、モクレン	H20	東プラザ北庭園
⑩6	卒業生記念植樹・卒業生有志	サトザクラ	H21	東プラザ北庭園
⑩7	卒業生記念植樹・卒業生有志	ウメ、ドウダンツツジ	H22	丸池内東北
⑩8	卒業生記念植樹・卒業生有志	サトザクラ(イチヨウ)	H23.3	第三研究館西
⑩9	植樹会ボランティア作業100回記念	シダレザクラ	H23	東1号館北西角

国立キャンパス記念植樹一覧表

1. 如水プラザ

樹木番号	記念植樹寄附者名(敬称省略)	樹木名	植樹時期	場 所
1	卒業50周年記念植樹・昭和25卒業生総会	コブシ・レパノスギ		如水プラザ西側

記念植樹分布図



編集後記

一橋大学国立キャンパス緑地基本計画が大学の公式計画と決定されたのと軌を一にして一橋植樹会が新たに生まれ変わったのが平成16年、2004年です。植樹会は卒業生のボランティアの労働奉仕により自らの手で緑の保全、環境整備を行うことを始めました。生々流転キャンパスの樹木も変わり年々衰弱木や枯損木が増加するなど、環境も計画作成時から変わってきました。基本計画に基づく植栽管理の10年を経ての成果をレビューすることが必要と考え、大学と植樹会メンバーが2年間に亘り何度も現場を訪れ樹木をそして又景観を視察調査し計画の検証を行いその結果をまとめました。それを踏まえ、次の10年にどのような植栽管理計画が求められるか具体的施策を検討し本誌に纏めあげました。計画策定以来ずっと植樹会が指導を仰いでいる福嶋司先生と大学からは同じく計画策定から関与された施設課伊藤正秀氏（本年8月末退職）に参加して頂きました。大学関係者のご理解とご尽力によりますこと申すまでもありませんが、特にお二人の力あってこのような冊子刊行に漕ぎ着けることが出来ました。深く敬意を表したいと思います。又、今日の植樹会の発展はお二人の不断のご指導とご協力によるものでありこの場を借りて感謝申し上げたいと思います。

この緑美しいキャンパスを大学（教職員そして学生）と卒業生が一体となって守って行くことと、その思いと精神を次の世代にしっかりと繋げて行くことが今の我々に課せられた使命であると改めて心に刻みました。

一橋植樹会 会長 八藤南洋



(参考資料)

○国立キャンパス緑地基本計画の成立経緯とレビュー実施経緯

1. 緑地基本計画成立までの経緯

- (1) 2003年6月 緑地管理のための調査開始
7月 植樹会ボランティア作業開始
- (2) 12月 基本計画概要は学内部局長会議及び評議会で承認され、教授会で報告される。
- (3) 2004年4月 植樹会定款変更により「新生植樹会」誕生
7月 基本計画概要に則った支障樹木伐採及び補植樹木について部局長会議で承認される。
- (4) 2004年11月 基本計画が正式に部局長会議で承認された。
評議会、教授会に報告された。

2. 緑地基本計画レビューの経緯

- (1) 2012年12月に新生植樹会10年を迎えるに当たり計画の検証を開始
- (2) 2013年1月レビュー作成にあたり全ゾーン52区の第1回目の視察調査を行い、2月、3月に引き続き視察調査を行う。
- (3) 2013年3月～7月にかけて記念植樹の調査を行い、寄附者・樹木名・植樹時期等を綿密に確認する。
- (4) 2014年5月に各ゾーンの第一次管理進捗状況をレビュー評価する。
- (5) 2014年6月より調査データをまとめ緑地基本計画レビューの作成に入る。
- (6) 2014年6月から2015年2月まで計4回幹回り150cm以上の大径木を種別に調査して、幹回り200cm以上の樹木を集計し分布図で表記する。
- (7) 2015年5月視察調査により新植栽木計画を策定した。



国立大学法人

一橋大学

HITOTSUBASHI UNIVERSITY

発行人 一橋大学

一橋植樹会

発行日 平成 27 年 12 月 18 日